明海大学浦安キャンパス

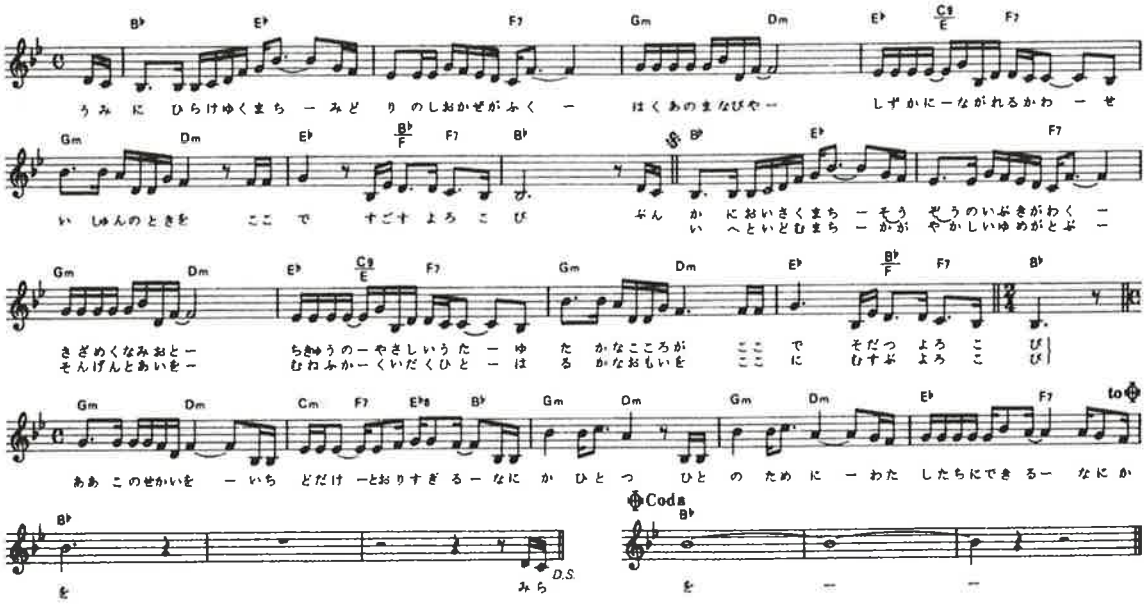
教育後援会20周年記念誌

MEIKAI UNIVERSITY
KYOIKU KOUENKAI

よろこび

学　歌

作詞：宮田慶三郎
作曲：小椋　佳
編曲：小野崎孝輔



一、明海に開けゆく都市
みどりの潮風が吹く
白亜の学舎
静かに流れる川
青春の時を
ここで過ごすよろこび

二、文化匂い咲く街
創造の息吹が湧く
さざめく波音
地球の優しい歌
豊かな心が
ここで育つよろこび
※ああこの世界を一度だけ通り過ぎる
何かひとつ　人類のために
私達にできる何かを

三、未来へと挑む基地
輝やかしい夢が飛ぶ
尊厳と愛を
胸深く抱く人
遥かな想いを
ここに結ぶよろこび
※くり返し

目　次

ご挨拶 ……1

■ 20周年を祝して　祝辞 ……2

■ 20年のあゆみ

教育後援会20周年記念座談会（前半） ……8

（後半） ……14

教育後援会のあゆみ ……20

歴代役員・現役役員 ……28

■ 大学の未来へ　保護者アンケート結果 ……30

キャンパスと街並み ……36

教育後援会の活動 ……40

※本誌では、一部、ホスピタリティ・ツーリズム学部（学科）をHT学部（学科）またはHTという略称で表しています。ご了承ください。

明海大学浦安キャンパス教育後援会　ロゴマーク

明海大学の「M」、教育後援会の「K」をモチーフとして中央に配し、学生の保護者である我々が、海を越え、風をとらえ、波打つように力強い明海大学とその学生たちを支援する様子をシンボル化。国際性、社会性、創造性に富んだ大学を、ともに生み出していく決意を表現しています。

創立 20 周年を迎えて

浦安キャンパス教育後援会会長　仲村　務

本会は、1988 年（昭和 63 年）、浦安キャンパス開校と同時に「明海大学外国語学部・経済学部父兄会」として発足しました。おかげさまで今年創立 20 周年を迎えることになりましたが、この間、皆様には本会の運営や諸活動に対しご理解とご協力を頂戴し、心から御礼申し上げます。

さて、私は、子どもが明海大学に入学した 2005 年から本会の活動に参加させていただいております。正直申し上げ、初めは「大学にも保護者の会があったのか」とただ驚いていただけでした。その後、メディア等で評判が高い国内他大学を毎年訪問しお話を伺ってきましたが、活動の主体が大学 OB の教職員であったり、大学の組織に組み込まれた形で活動しているケースはあっても、本会のように卒業生でもない保護者が主体的に活動している例には出会っておりません。また、海外留学制度に対する支援や地区懇談会の開催をはじめ、大学と緊密な連絡を取りつつその時々でタイムリーに企画を進めアクティブに行動して来た実績を見るにつけ、子どもの卒業につれ保護者が次々と入れ替わっても、本会は、開校未だ 20 年という歴史のハンデを乗り越える、その役に立つべく綿々と活動してきた素晴らしい組織だと認識を新たにするばかりです。

20 周年を迎える今年は、本会の活動にとって大きな節目の年であり、次の 10 年を考えるスタートの年です。重要な柱としては、第一に、保護者の関心が最も高い就職対策や資格取得への徹底した取り組み支援です。思い切った取り組みを大学にお願いしていきたいと考えています。第二に、明海大学の飛躍的な知名度アップと浦安キャンパス同窓会や歯学部、及び地元浦安市との連携強化です。また一層地域の方々にも応援していただけるようにしなければなりません。第三に、大学の戦略「選ばれる大学づくり」に呼応した取り組みです。保護者の視点から、学生全員が「入学して良かった」「毎日が充実している」と満足してくれるようにしたいものです。保護者に協力いただいたアンケート結果を、本会の宝物として活かしていきたいと考えております。

保護者やご家族の皆様、関係各位のご健勝ご多幸と、明海大学のますますの発展をご祈念申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。

祝辞■

明海大学浦安キャンパス 20 周年記念を迎えて

理事長　宮田　侑

明海大学浦安キャンパス教育後援会が創立 20 周年を迎えられるに当たり、学校法人明海大学を代表してお祝い申し上げます。

顧みますに、1988 年から浦安キャンパスに外国語学部、経済学部、不動産学部が順次設置されて以来、浦安キャンパスにおいては、高等教育の転換期を迎えることを予測し、建学の精神に基づく「選ばれる大学づくり」をめざして、教育研究の質を保証する施策づくり改革に着手しました。学部 3 年次編入学制度導入、別科日本語研修課程設置、学部第一部及び第二部を昼間主・夜間主の昼夜開講制に改組、千葉県私立大学との単位互換包括協定書締結、浦安市と相互交流に関する協定書締結、INT 教育センター（総合教育センター）設置、浦安市と地域発展の合意書締結、浦安キャンパスメディアセンター市民開放事業締結、新学部（ホスピタリティ・ツーリズム学部）の設置、明海大学 PDI 浦安歯科診療所開設、海外の大学との学術交流締結(27 校)、不動産研究センター設置、オープンカレッジ等々の浦安キャンパス全般の改革のための諸施策を展開してまいりました。

教育後援会におかれましては、会長はじめ関係各位の諸問題に対する適切な支援を賜りました。本学改革における事業計画に連動した各種事業の実施や父母と大学との緊密な連携等のほか、学生の課外活動等の援助など、本学教育行政に係る重要な一翼を担い、多くの足跡を残され、多大のご尽力とご支援を賜りましたことを、ここに、15 代にわたる歴代の会長はじめ関係各位のご貢献に対し、深く敬意を表する次第であります。

現在、大学は社会、経済のグローバル化、情報化という大きな潮流の中に置かれ、高等教育機関ではメガ・コンペティションが進んでおります。

本学では、この大競争時代の「ユニバーサル化」に対応し、建学の精神、使命・目的を具現化するため、「学士」の質の保証を図る施策を講じてまいります。

学士課程教育の国際的な通用性を高めるために、建学の精神の理念や国際的な通用性を勘案して、授与する学士号が保証する知識や技能を学習成果として明確にし、その修得をすべての学生に図るようカリキュラム、教授法、評価法の開発や工夫に努めてまいります。

具体的な改革執行の基本方針は、建学の精神に基づき、大学の大衆化時代に対処して、汎用性のある基礎的な能力を育成する教育を効率・効果的に展開するため、「First-Year Experience」に重点を置き、学ぶ基礎力を養うとともに、学ぶ意欲を喚起することを視野に入れつつ、改革を推進してまいります。

学生の豊かなキャンパスライフを実現し、社会との関係を強化するためには、教育後援会・同窓会との連携を強化し、ご父母・同窓生とのコミュニケーションを深めてまいります。

本学の更なる発展・充実のため、努力してまいりますので、今後とも教育後援会のご支援ご協力をお願い申し上げます。

教育後援会
創立 20 周年記念に寄せて

学長　安井　利一

浦安キャンパス教育後援会創立 20 周年、誠におめでとうございます。明海大学の教職員を代表してお慶びを申し上げますとともに、20 年の長きにわたり学生諸君と大学を支えてくださいましたご尽力に対し深甚の謝意を表するものです。また、1988 年 10 月に設立されてから今日まで、教育後援会を運営し、支えてきてくださいました多くの役員の皆様に対しまして、改めて御礼を申し上げたいと存じます。

さて、教育は、人を創るものですが、その場としては学校と家庭そして地域の連携が必要であると言われております。特に、教育の最高学府としての大学においては、最後のそして最高の人づくりの仕上げを行わなければなりません。大切なご子女をお預かりして、どのような人に創り上げていくかは、教育者にとって喜びでもあり不安でもあります。

私たちは、明海大学の建学の精神であります「社会性、創造性、合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成」を 4 年間という定められた時間の中で、生涯にわたり自ら高揚できるようにするための教育を行っていますが、その評価は、学生諸君が卒業し社会の中で与えられるものです。このような大切な大学生という時期を、大学と保護者が一体となって見据えることができることは、学生諸君にとって素晴らしい状況であろうと思います。

浦安キャンパス教育後援会の活動は、教育後援会だより「潮風」の発行、地区父母懇談会の開催、課外活動への援助、学園祭への援助、就職対策業務への援助、学友会サマーキャンプへの参加・援助、長期留学・短期海外研修への援助、厚生施設の利用補助、さらには学生食堂への援助や卒業記念事業への援助など枚挙に暇のないほどで、これら多くの事業を通じて、学生諸君と大学への支援をしていただいております。

本当に有難いことで、感謝の気持ちで一杯です。

教育後援会の活動に応えて、お預かりしている学生諸君が、生涯にわたり豊かな生活を楽しむことができるように、さらに教育に一層の力を注ぐ所存です。今後とも、教育後援会と二人三脚で学生諸君を見守り育てていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

最後になりますが、浦安キャンパス教育後援会のますますのご発展を祈念いたしております。

祝・教育後援会
《成人式》

前学長・学事顧問　髙倉　翔

浦安キャンパスの誕生は1988年、その年に発足した浦安キャンパス教育後援会は創設20周年、まさに《成人式》です。おめでとうございます。

明海大学は、国際的なイベント開催年と不思議な巡り合わせがあります。前身の城西歯科大学の創設は「大阪万博」の1970年、浦安キャンパスの誕生（明海大学に学名変更）は「ソウル・オリンピック」の1988年、不動産学部の誕生は「バルセロナ・オリンピック」の1992年、そして、ホスピタリティ・ツーリズム学部の設置は「愛・地球博」の2005年でした。今年迎えた後援会20周年の《成人式》は「北京オリンピック」の年にあたります。

この巡り合わせは、本学の建学の精神、『“国際未来社会”で活躍しうる有為な人材の育成」とも深くかかわっているといえるでしょう。

私が明海大学とかかわりができたのは、1990年、浦安キャンパスが誕生した2年後でした。浦安キャンパスの2つの学部（外国語・経済学）のうち、外国語学部の3学科の学生が中学校と高等学校の教員免許状を取得できるよう、文部省に「教職課程の認定」の申請をしたときのことです。私は、いわば“応援団”の非常勤講師として申請のメンバーに登録されました。その後、3年間、非常勤講師として勤めました。その間は、明海大学に教育後援会があることを知りませんでした。

時が移って、1996年に外国語学部の教授として赴任、翌年、副学長（3年目は外国語学部長を兼任）、4年目に学長を務めることになり、教育後援会の《文字通りの後援》に感謝の意を深める生活になりました。評議員会や地区懇談会はもちろん、インフォーマルな会合にも積極的に出席させていただき、歴代の役員の皆様やご父母の方々との交わりを深めることができました。

今年の3月で3期9年間の学長任期が満了となり、明海大学を退任いたしましたが、偶然にも教育後援会の《成人式》の年に当たります。それだけに、感慨深いものがあります。

浦安キャンパスと教育後援会が「一体」となって、明海大学が発展の一途を辿ることを祈念し、かつ、確信しつつ、《成人式》をお祝い申し上げます。

教育後援会
創立 20 周年にあたって

浦安キャンパス同窓会会長　**北原　淳**

明海大学浦安キャンパス教育後援会創立 20 周年、誠におめでとうございます。浦安キャンパス同窓生を代表し、心よりお慶び申し上げます。

教育後援会は一期生の私が入学した 1988 年に創立され、いち早く「課外活動援助」や「学園祭の援助」といった事業を立ち上げていただきました。先輩のいない一期生は、学生生活のすべてが手探りで、なおかつ自らの手ですべてを築いていかなければならない状態でしたから、教育後援会の温かいご支援は、私達の学生活動にとって本当にありがたいものでした。手探りという点では、当時の教育後援会役員の方々も同様で、たいへんご苦労が多かったことと思います。

同窓会は私達が卒業した 1992 年に創立いたしましたが、同窓会活動の始動においても手探り状態は続きました。この時もさまざまな点で教育後援会の方々には、温かいご支援をいただいたものです。つまり、「学生としての私」と「同窓生の私」という 2 つのステージでお世話になってきたということです。

おかげさまで、一昨年、同窓会は 15 周年を迎え、組織作りに力を注いだ創成期を終え、教育後援会と協同事業を展開するまでになりました。積極的に事業を展開する第 2 ステージへと移ったとも言えます。現在は、卒業生へのアルバム制作におけるコラボレーションが主な事業ですが、今後もお互いの活動主旨に沿って、有効な協同事業を展開させていただければ幸いです。

教育後援会と同窓会は、明海大学の外郭団体としてそれぞれの活動目的を持っていますが、その目的は「明海大学の発展に寄与する」という共通のベクトルを向いています。我々もさらなる成長を目指し、これまでお世話になったご恩返しをしながら、力を合わせて目的の達成を目指していきたいと考えています。

創立以来 20 年間、中心となって活動をなさった役員の方々、本当にご苦労様でした。また、教育後援会の活動に賛同していただいているすべての方々に対し、これまでの心温まるご支援に感謝いたします。そして、引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げるとともに、創立 20 周年を心よりお慶び申し上げます。

祝辞■

温故知新

浦安キャンパス教育後援会名誉会長・初代会長

岡本　長吉

明海大学浦安キャンパス教育後援会創設20周年おめでとうございます。

私の母校の校歌に「古きを尋ねて新を知らん」という歌詞がありました。浦安は今から800年ほど前に漁業を中心とした村落で堀江・猫実・当代島の三村がありました。明治20年に初代の町長さんが「この浦・安かれ」と願を込めて浦安と名づけました。

本年は、浦安が誕生して120年になります。明海大学浦安キャンパスが誕生して20年、創設時は、浦安誕生100周年という記念する年であったのです。

さて、明海大学浦安キャンパスの開校当時の当地域（日の出・明海地区）は、昔から海苔、アサリ、蛤、はぜ等がよく採れた海であったのですが、昭和53年9月に誕生した埋立地で未開発のこの地域にはほとんど建物がなく、JR新浦安駅前もガランとした空地でありました。当時の学生は、通学も不便、昼食を摂るところもなく大変苦労しておりました。

顧みますと、今から20年前の8月頃に初代事務局長さんの足立先生から明海大学に父兄会設立準備委員の要請をうけ、学校との連絡、会議への出席などの都合から近隣の地域から池下龍、小島昭治、木村知義、田上澄子先生、そして私・岡本長吉の5人が選ばれ、会則、事業計画、予算等は、足立先生はじめ事務局の諸先生方のご指導を受け、決定しました。

さて、新しい役員選出について当時のご父兄は、北海道から沖縄まで全国津々浦々718名であり、初めてのケースで非常に困惑いたしましたが、役員を20名とすることとし、初年度5名で準備委員がそのまま務めることになりました。以来、現在まで15代と会長さんが引き継がれ、その間、会則を変更し、父兄会から教育後援会とし、評議員会制度を採用して現在では、役員20名、評議員60名と充実した組織となり、素晴らしい活動を展開されております。

このような短期ではありますが、組織の充実と会員との意思の疎通とご協力、学生への援助の充実等益々ご発展されております。

明海大学浦安キャンパスは、建学の精神が「国際的視野をもって人類の繁栄を考える人材の養成」を究極の目的とした総合大学として当初2学部から現在では4学部となり、ますます発展しつつあります。この地に素晴らしい大学を創設されました初代理事長さんのご英断と関係者の現在までのご努力に対して、深甚なる敬意を表します。

終わりに、創立20周年の歴史を礎石に関係者の一層のご尽力を賜りまして、更にご発展されますよう衷心からご祈念申し上げます。

創立 20 周年に寄せて

浦安キャンパス教育後援会前会長　谷　昭夫

この度、明海大学浦安キャンパス教育後援会が創立 20 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

さて、教育後援会は、明海大学浦安キャンパスが開校した 1988 年に「父兄会」として発足したと伺っております。初代の会長から数えて私で 15 代目になりますが、歴代の会長をはじめ、役員の皆様のご尽力により後援会活動も年々活発になり、事業もより充実、大学とも関係を密にとり、明海大学の発展に寄与してきました。私が教育後援会の役員になったのは 2004 年から 2007 年までです。その 4 年間の中から、思い出の一部を記述したいと思います。

教育後援会の事業の中でも大きな役割を担っている各地区教育懇談会も昨年度、全国 7 カ所で実施するようになりました。一昨年の九州地区（福岡市）で初めて実施したときは、九州地区の半数以上の保護者の皆様に何時間もかけて会場に集まっていただきました。大学側からも学長をはじめ、全学部長の先生と担当課長、そして教育後援会事務局と少人数ですが各関係者のトップで出席しました。参加した皆様の熱心な質問に詳細に答えていただきありがとうございました。面談が終わった保護者の皆様の安心した顔を拝見し、地区懇談会の大きな役割をあらためて認識することができました。先生方は翌日早朝から会議があるとのことで、夕方遅く東京へ帰られました。教育後援会としてそのご苦労に対して感謝の念でいっぱいになりました。

昨年は信州地区（長野市）でも初めての地区懇談会を開催することができました。遠く離れたご子女のことを心配する保護者の気持ちを、学長、学部長の先生方に面談していただき、とても安心していただけた様子でした。

遠く離れて学生生活をしている子を持つ親の心配を私たちも肌で感じることができ、教育後援会の地区懇談会の意義をより強く意識することができたと同時に、地区懇談会に参加してくれた多くの先生方や職員の方に心から感謝を申し上げたいと思います。

浦安キャンパス教育後援会も創立 20 周年記念を節目として更なる充実を目指し、大学、学生、保護者が何を望んでいるかを十分に理解し、これからの後援会活動に活かしていきたいと思います。明海大学、教育後援会のますますのご発展をご祈念申し上げ、創立 20 周年記念のお祝いの言葉とさせていただきます。

20 周年記念座談会■ ①前半

教育後援会の草創期を振り返って

出席者	初代会長	岡本　長吉
	3 代会長	黒田　　学
	4 代会長	白石　雅章
	5 代会長	丹下　　剛
	6 代会長	加藤　想士
	7 代会長	山岡　達哉
	8 代会長	稲葉　光治
司会		仲村　　務

試行錯誤、教育後援会の土台を固めた草創期

仲村　務氏

仲村　教育後援会の土台を固めた草創期といえる皆さんの期では、何かと試行錯誤でご苦労が多かったと推察します。まずは、実施された事業、出来事、思い出などをお話しください。

岡本　初代会長を務めさせていただきました。早いものでもう 20 年。当時は父兄会といっていました。最初の役員は大学がかなり慎重に選んだと聞いています。我々も次の学年の役員を選ぶときに苦労しましたが、会議がけっこうありましたので、なるべく近くに住んでいる人にお願いしていました。初年度は役員 5 人でスタート。次年度も 5 人、そして 4 年目にはようやく各学年そろって 20 人になったわけです。役員の定員は変わっていませんが、今は全国から評議員を選出していますね。当時、どのような事業をしたらよいのか手探りの状態でしたが、先生方から研究本を作りたいとか、サークル活動に必要な道具がほしいなど、諸々の要求がありました。学校事務局と相当やりとりしました。結局、役員会で相談して、先生には本を作ってあげ、吹奏楽部には 1 千万円を超える楽器の購入を援助しました。当時、とても喜んでもらった思い出があります。

岡本　長吉氏

黒田　3 代目の黒田です。2 代目会長の安宅さんは残念ながら亡くなられました。私の代では、まだ組織も小さかったし、歴史も浅くてベースになるものもあまりなかったので、まず役員とのコミ

ュニケーションが第一ということも含めて、会議を何回もやりました。おかげさまでとてもよい雰囲気で１年が過ぎたと思っています。まだ、会の名前も決まっていなくて、「父兄会」でした。その後、役員も増え「母親もいるのだから父兄会はおかしいのではないか」と指摘されたことが印象に残っています。

白石　４代目の白石です。私のときに初めて１学年から４学年までそろいました。私にPTAなどの経験がなかったものですから、予算・決算がべらぼうな金額で驚いたことが印象に残っています。それを役員たった20人で、まして大学近辺の人たちだけで予算決算してしまってよいのだろうかと不安を持ちまして、大学と黒田会長にお願いして評議員会を作ったのです。役員が作った予算・決算を承認していただくということで評議員会を設置しました。今では笑い話ですが、みんなこういうことは初めてだったので、決算に会計監査の監査報告がなくて評議委員の方にこれはまずいと指摘されました。それから、父兄会という名称はおかしいという意見が出ました。そして、大学からの提案もあって、「教育後援会」という名称が決まりました。それと、役員の親睦を深め、教養を高めるために研修旅行を企画しました。歯学部のある坂戸キャンパス、姉妹校の朝日大学を視察しました。また、会員の皆さんに何のメリットもないということで、我々が各地に出向いて情報の提供をしようと、第１回目の地区懇談会を郡山で開催しました。

父母として大学に何ができるか
援助の方向性を模索

丹下　５代目、平成７・８年と、２年間会長をやりました。いくつか新しい事業を始めています。まず、歯学部の父母会との合同懇親会を行い、交流

を深めました。また、大学が実施する事業への支援ということで、海外派遣の援助をしました。まだ制度ができていなくて、各学部の先生方からも「援助してもらえないか」と相談がありました。役員の中には、大学が出すべきだという意見もありましたが、とにかく制度を発足させようと教育後援会からも支援させていただきました。それから、海外への視察旅行も初めて行いました。アメリカ東部地区の大学を5、6カ所視察して、それが学生会館建設を提案するきっかけとなりました。もうひとつ、教育後援会だより「潮風」で新春対談を企画しまして、初代の宮田慶三郎理事長と対談をしました。その後まもなくご逝去されたので、それが宮田理事長との最後の対談となりました。「潮風」の題字はその時にご本人からいただいたものです。

丹下　剛氏

加藤　6代目の加藤です。10周年のときの会長ですので、「光陰矢の如し」の心境です。10周年記念事業としては、「感謝の会」を開きました。大学・大学院設立に全力を尽くしていただきました理事長、学長はじめ教職員全スタッフの皆さんのほか、明海大学と明海大生とを温かく見守り育てていただいた浦安市の地域の関係者をお招きし、各自治会などに感謝状を贈呈しました。職員からは、「感謝の会をきっかけに、（自治会等からの）不満の声も激減しましたよ」と喜ばれました。私の代では、宮田理事長を中心に、初めて大学・教育後援会合同で「日中平和友好条約締結20周年記念中国全国日本語大学生交流大会」へ参加し、交流協定大学である北京外国語大学、北京師範大学、北京医科大学などを視察しました。また、丹下会長から引き継ぎまして、魅力ある大学づくりのために、①学生会館の建設　②学生寮の建設　③国際交流の推進　④高度情報処理の充実　⑤大学院の設置を提言しました。

山岡　私が会長をやったのは1999年という20世紀最後の年で、折しも大学が競争時代に突入という非常に厳しい環境下にありました。そういう中、本学では魅力ある大学づくりの取り組みが動き出していて、韓国の同徳女子大、オーストラリアのセントラルクイーンズランド大、台湾の銘傳大との交流が結ばれ、大学院の修士課程が設置され、翌年には博士課程設置を目指すと、そして設備面ではトレーニングセンターやクラブハウスが造られ、サッカーコート、ラグビーコートを公式試合ができる規格に改修していただき、その次年度は図書館新築の工事が計画されていました。また、学長が大東先生から髙倉先生に代わり、新体制がスタートしています。髙倉先生は、大学と教育後援会はイコールパートナーとおっしゃってくださり、それぞれの役割を果たし協力してがんばっていきましょうという関係を築けました。ただ、役員の中では、地方の親御さんに後援会が理解されていないのではないかという意見がありまして、教育後援会を案内するリーフレットを作成し、配布しました。

稲葉　平成12年度に会長に就任しました。今では当たり前の「IT」という言葉が使われ始めたころで、就職状況が厳しくなってきた時代でした。それでも、浦安には12年秋にイクスピアリができ、13年には東京ディズニーシーができるとの予定で、3000億円の投資と3000人の新規雇用が生まれる状況でしたので、明海大学のすぐ隣にあるディズニーリゾートとの協調関係を作れれば、就職についてもほかの大学とは違うメリットが生まれるのではないかと大学に申し上げた記憶があります。新しい事業としては、教育後援会が卒業アルバムを購入して全員にプレゼントしました。当時、アルバムを購入していたのが、学生の半数でした。卒業してすぐには必要ないかもしれ

稲葉光治氏

ないけれど10年、20年たってから必ず明海大学を懐かしむときがくるはずで、後援会からプレゼントすることになりました。大学の予算はきっちり決まっていて、新規の事業をするのは難しかったわけですけれども、教育後援会はわりとフレックスに対応できたので、学生やスポーツ団体から提案があると、後援会と大学で話し合い今年度は教育後援会が援助するが、次年度からは大学の予算に組み入れるなんてことをやっていました。

仲村　ありがとうございます。今、現役の私たちがやっている事業の始まりを話していただき、目的や考え方がよく理解できました。先日、学生たちと話す機会があり、吹奏学部の学生が「教育後援会に楽器を援助してもらった」と話していました。学生たちは教育後援会のバックアップを理解して、代々語り継いでいます。ただ、「大昔に買っていただいた楽器をいまだに使っていて、故障した」とか「使いにくい」とか話していましたね。

岡本　壊れて音が出ないんじゃしょうがないから、なんとかしてやってくださいよ（笑）。

充実した
キャンパスライフ実現のための援助を

仲村　教育後援会では、かつて、大学のアメニティを高めるためにベンチの寄贈や植樹などを行っていました。このほかにも皆さんが必要だと思われる施設はありましたか。

丹下　学生会館の要望も多く出ていましたが。

仲村　毎年のサマーキャンプなどで、練習や発表など多目的に使えるホールのような施設を望む声が出ています。

稲葉　（話が進みにくいのは）学生会館＝学生運動というイメージがあるからかもしれません。学生会館という名称ではなく、別の名前を考えてもいいかもしれませんね。

山岡　今の学生に本当に学生会館が必要なのかという議論も必要です。私が大学生だったころは学生会館は大学の中核施設でなくてはならないものでしたが、今の大学生たちは本当に必要としているのか。改めて検証したほうがよいと思います。

丹下　アメリカに視察にいったときに、学生が大学の中で和気あいあいと活動していました。その雰囲気がとてもよかった。今の学生の多くは、大学で授業を受けて、試験を受けて終わりという印象があります。大学の中で学生同士、または先生と話をする場が少ないのではないでしょうか。

仲村　今の学生はなかなか一堂に集まる機会がないようです。

丹下　大学に足を運ぶと楽しいと思う環境を作ってあげたい。社会に出るとそういう機会はないから、勉強だけでなく、さまざまな教育環境を作ってあげたいのです。

加藤想士氏

加藤　20世紀は公の時代、21世紀は個の時代といわれています。だから、学生会館の必要性がどれくらいあるかという疑問もでてきたのでしょう。もし、教室や体育館で代用できるということであれば、新しい施設はいりませんから、学生と父母の声をよく聞いて戦略を練り直す必要があります。学生会館にこだわらず、社会に貢献したり、協調性を養ったり、先生と話をしたり、そういう環境をどうつくっていくか、時代にあった提言をしていくべきでしょう。

黒田　浦安は家賃が高いので、学生寮を先につくってあげるのが学生のためかなと思います。

加藤　明海大学には14カ国から600名以上の留学生が来ています。特に留学生にとっては、住まいや生活のことは切迫した問題で、学生会館以上に寮の問題、生活にかかわる問題の解決が先かもしれません。

山岡　明海大学の在籍数は約6000人と聞いています。寮は何部屋作れるのか、何人カバーできるか、よく考えないと、偏った支援になってしまう可能性もあります。皆さんに行きわたるような支援の方がよいかと思います。

山岡達哉氏

丹下　明海大学の教育後援会というのは非常にすぐれた制度だと思います。大学の運営は大学がやっているのだから、自分たちで施設づくりやサービスを提供して当たり前ですが、父母にも予算を持たせ、皆さんも考えてください、声を聞かせてくださいというのは、非常にいいことです。

山岡　それと名誉会員制度はめずらしいと思います。卒業してもこうやって交流でき、学校とも関係が保てるのはよいことです。

岡本　現役の役員さんでは言いにくいこともあるでしょうから、私たちが憎まれ役を買って出てもいいですし。

「三本の矢」のコーディネーターに

加藤　会費を下げたようですし、学生の数も少なくなって、資金的に余裕がない時代がきています。これからの教育後援会は、資金面での援助よりも、知恵を使ったソフト面での援助ということがポイントになってくると思います。

山岡　浦安市にもほかの大学が進出してきました。何か特筆できるもの、例えばオリンピックに出場できる学生を育てるというような努力も必要になると思います。

丹下　PRの時代ですから、箱根駅伝に出場できたらよいのではないかと、宮田理事長に進言したことがあります。しかし、10人の選手を出すのに、部員が100人も200人もいるとか、なかなか大変らしい。でも、今年も新興の小さな大学が出場してがんばっていました。サッカーもいいかもしれません。もちろん、学力、就職率の勝負でもいいのですが。

加藤　お正月の2日間、明海大学のゼッケンをつけた選手がテレビに映っていたら、全国の明海大生、父母、卒業生がどんなに自信と誇りをもてることでしょう。教育後援会にはさまざまな援助があると思います。学生全体に行きわたるサポートはもちろん必要ですが、1つのターゲットにかけて、全体への波及効果を期待するというものも有効ではないでしょうか。

白石　スポーツの指導者を教育後援会で援助できないでしょうか。体育会もできたようですから、大学側とすりあわせが必要ですが。

白石雅章氏

仲村　教育後援会の草創期をリードしてこられた歴代会長の熱い思いが感じられるお話が続きました。では最後に、今の教育後援会に対するアドバイスを一言ずつお願いします。

稲葉　大学と教職員、そして学生との間にあって、硬直しがちな関係をいかに柔らかくするかが教育後援会の大きな役目だと思います。

山岡　今の学生の資質を考えると、大学に施設を造るよりは、ソフト面での充実をやってほしい。

例えば、将来やりたいと思えることを示してくれる教育や、明海大学で学んだことにより将来設計が描けるなど。そういうことの実現に、ぜひ支援をしていただきたいと思います。

加藤　大学と学生と親が3本の矢であって、教育後援会はそのトータルコーディネーターであるべきだと思います。大学生の時期は脳細胞の活動のピークですから、とにかく学問をしてほしい。また、人間形成の大切な時間でもある。3本の矢で支え、育て、磨きをかけていく。そして社会に出していきましょう。

丹下　明海大がよくなってほしいというのが、学生と親にとっての願い。それを実現してくれるのが経営者です。日本でも屈指の大学を目指すという気概でやってほしい。教育後援会もそういうレベルで、大学に対して辛口のアドバイスをすべきだと思います。

白石　決められたレールの上を走るだけでなく、学生には開拓精神をもって、4年間の学生生活を送ってほしい。親はそのための手助けをすべきだと思います。

黒田　明海大学があってはじめて明海大学の教育後援会があるわけで、いつまでも素晴らしい大学であってほしいし、大学、同窓会、教育後援会が協力して、明海大学を日本の全国区に押し上げたいと思います。

黒田　学氏

岡本　名誉会員という制度や会が明海大にあることを誇りに思う。この力で学生や父母、大学のためになることができればいいと考えます。

仲村　今年は学長も代わられ、大きな節目となる年だという気がします。皆さんにバックアップしていただきながら、現役の父母の声を十分聞いて、事業を展開していきたいと思います。

2008年1月10日オリエンタルホテル東京ベイ

教育後援会の充実期を振り返って

出席者	9 代会長	中田　俊一
	10 代会長	山内　　薫
	11 代会長	大塚　博行
	12 代会長	横濱　孝雄
	13 代会長	鈴木　陽夫
	14 代会長	篠原　康光
	15 代会長	谷　　昭夫
司会		仲村　　務

その時代の流れを事業に生かした充実期

仲村　前回を草創期とすれば、今回は充実期というべき歴代の会長さんにお集まりいただきました。草創期の皆さんから出たお話は、思い出話よりも次はどうするんだという未来志向のお話が多かったように思います。皆さんはいかがでしょうか。

中田俊一氏

中田　9 代目になります。私より前の代の会長さんは非常に個性が強い方たちで、強いリーダーシップでぐいぐい引っ張っていらしたのですが、私はそれができませんでした。あの頃は、経済状況が厳しくて、父親がリストラに遭ったから勉強を続けられないというような学生が出てきて、奨学金の貸し付け希望者が大きく増えました。一方、大学は国際交流に力を入れ、教育後援会も学生の留学支援の枠を広げたと記憶しています。それから、立命館大草津キャンパスを視察して、特に就職支援についていろいろヒントを得ました。また、優秀な学生たちに対する表彰制度があり、本校でも取り入れたいと考え、山内会長に引き継いで実現してもらいました。

山内　薫氏

山内　10 代目を務めました。9 代目の中田会長と連動して、立命館大学で視察した表彰制度を立ち上げました。併せて奨学金制度も見直ししています。海外研修で韓国に行き、6 つの大学を視察しました。引率は韓国在住の卒業生が引き受けてくれて、日常生活もお世話をしてくれてたいへん助かりました。もちろん研修ですから観光旅行とは違いますが、単に大学を回るだけでなく、その国の文化や歴史に触れる方が後々まで印象が残るのではないかと思い、ス

ケジュールを変更して釜山から慶州まで回り、より研修が深まったと思います。

大塚　私の代は前年度からの継続事業に加えて、新規事業もいくつか立ち上げ、盛りだくさんでした。1つは地区懇談会の地域を増やし、新規に盛岡市と浦安キャンパスで3年生を対象とした就職懇談会を開催しました。2つ目は教育後援会のHPを開設しました。そして、スポーツや文化活動に功績のあった学生を表彰する制度もこの年から始まりました。また、大分県別府の立命館アジア太平洋大学の視察も行いました。

収入減で事業見直しの時期に

横濱　私は2001年に役員になりました。その時中田会長が4年生で、その後、山内会長、大塚会長といろいろやってくださっていたので、新しいことというよりは、既存の事業を次の代に引き継ぐことを考えていました。あの頃は、ビックバンが終わってバブル経済が崩壊して、学生たちにとっては就職氷河期が続いていました。それで奨学金の返還が遅れがちで、このままでは制度の存続が危うくなってしまうということで、大学事務局と教育後援会でどうやって回収をしようかと話し合い、弁護士に頼んで回収手続きのメドをつけるというような厳しい仕事もやりました。それから明海大学に新しい学部－ホスピタリティツーリズム学部（HT学部）ができるということで、アメリカ視察をしました。日本と全く違う、大学の考えや設備に驚かされたことを記憶しています。

鈴木　2005年度、13代の会長を務めました。HT学部が発足した年です。ずっと就職氷河期が続いていましたが、この頃からだいぶ環境が好転したという実感があったことが印象に残っています。会長としては、それまでの事業をより充実させたいと考えていたのですが、問題提起をし、議論を深めつつ次の篠原さんに引き継いだわけです。学生への援助についても予算との絡みから先送りしてしまいましたが、次の会長がしっかり大学側と交渉し、教育後援会の援助のあり方を整理してくださいました。

篠原　私は2006年度の会長を務めました。新しく九州地区福岡で試験的に地区懇談会を開催しました。それまでの地区懇談会は、全体会議があって、面談、懇親会という流れでしたが、それを少人数の規模にして、全体会議と懇親会のみで開催してみました。2月の開催だったので、成績表がまだ出てこないという時期的な問題もあり、個人面談はやらなかったのですが、少人数ということもあり、先生方とうち解けてお話しできたので、皆さん満足されたようです。その成果をもって谷会長さんに、信州地区での新規開催を引き継ぎました。予算面では、後援会会費の減額や学生数の減少が影響して、収支バランスがくずれてしまいました。そこで、横濱さんの代から3年計画で予算見直しを行いました。大学とも協議を重ねて教育後援会の事業を見直し、大学で負担すべきところは負担していただくようお願いしました。それによって学生食堂の光熱費と就職支援の費用は大学側で持っていただけることになり、だいぶ次年度の予算の収支バランスが良くなりました。私の代までは、その年の会費では足りなくて、特別会計の積立金を取り崩して一般会計に入れていましたが、次年度の谷会長さんの代からは、会費だけでその年の事業ができるように引き継ぎました。

谷　昭夫氏

谷　任期半ばの現職です（座談会開催時）。篠原会長さんから引き継ぎまして、今のところ順調に事業を進めているところです。福岡の地区懇談会では、やはり個人面談をやってほしいという意見があり、今年度は個人面談も行いました。教育後援会の会長と副会長、大学側から学長をはじめ学部長、大学職員とで面談を行い、とても喜んでいただきました。長野でも初めて開催しましたが、手応えがよかったですね。在校生の人数は少ないのですが、その半分くらいの方が出席してくれました。それから今年は中京大学を視察してきました。最寄りの地下鉄の駅から雨に濡れないで大学に入れるし、駅には「中京大学」の名前がたくさん書いてありました。宣伝にかなりお金をかけています。それも教育後援会と同窓会が援助しているんですね。後援会の運営も私たちとちょっと違っていまして、学校側が事務局をやっています。そして、年間に30カ所くらいで地区懇談会をやっています。私たちは1年間で7カ所やっていますが、これで精一杯ですね。

開催地増え、地区懇談会も見直しが必要

大塚博行氏

大塚　地区懇談会はいい事業ですよ。役員の父母と先生方が一緒に移動していくから、コミュニケーションが図れます。また、父母が住んでいる所に出向いていきますから、参加者は大学について知識が深まり、明海大学のことを理解してもらえます。地区懇談会は大学の営業活動の延長だと考えています。ただ、会場など手配がたいへんだから、そんなに大げさなことにしないでこぢんまりと、でも開催場所は増やしていったらいいと思いますね。

仲村　中京大はそんなに労力をかけていないように見えました。

篠原　地区懇談会は本来、大学がやるべきかとも思いましたが、大学だけではなかなか難しいと思います。また、同じ立場の父母が手作りで開催しているという安心感が参加者に喜ばれていますから、教育後援会が関わる必要はあると思います。

谷　福岡で地区懇談会を開催したときに、参加者から、明海大は九州ではほとんど知名度がないので、もっともっと宣伝してほしいと言われました。まったく知らない学校に子どもをやるのは不安なんですね。

スポーツ、新学部
明海らしさで知名度アップを

仲村　知名度アップのために何かよい案はないでしょうか

鈴木陽夫氏

鈴木　東京ディズニーリゾートのあるJR舞浜駅には、全国からたくさんの人が集まります。これから大学を受ける年代も大勢来ますから、ここで大きく宣伝したら効果的だと思います。

横濱　東京駅の地下街にもいろいろな大学の広告が出ていますね。

大塚　20周年はひとつのチャンスですから、社会にどうアピールすべきか、よく考えるべきです。

篠原　ひとつの提案ですが、評議員を活用してはいかがでしょうか。評議員は1学年に15人います。大学の近辺に5人、地方に10人。4年間過ぎると、「はい、さようなら」になってしまいますが、卒業後も例えば自宅などに「明海大学連絡所」というようなプレートを立ててもらって、学校案内のパンフレットをおいてもらったらどうでしょう。いい拠点になると思います。

横濱　スポーツによる宣伝効果も大きいと思います。まったく無名だった山梨学院大学が、箱根駅伝であれだけ有名になったじゃないですか。今年は中央学院大学が出場していました。千葉県の小さな大学でもできるのですから、明海大学にも期待したいですね。

大塚　明海大学にもすでに目玉はあります。そのひとつはHT学部です。はっきりしたテーマを持った学部ですから、明海大学のHT学部に入れば、どこへ行っても通用するよ、浦安のホテル群やディズニーへどんどん就職できるよというようになればかなりの魅力です。

山内　会長在任中に、魅力ある大学づくりの一環として、不動産学部の他にもう一つ、特徴的な学部があると大学のアイデンティティが出せるのではと要望したことがあります。結果としてHT学部という新しい学部が誕生しましたが、今後さらに専門化し、特徴化して、社会のニーズに応えられる学部になってほしいと願っています。大学はこうあってほしい、こうあるべきだということを父母が常に声に出していくことも大切ではないかと思います。奇をてらうだけではなくて、中身が伴っていないと。アプローチが少し弱いなという気がしますね。

横濱孝雄氏

横濱　まだ手探りな部分があるのではないでしょうか。スタートしたばかりですから、一気には無理でしょう。

鈴木　コンセプトをもう少しはっきりさせてほしいですね。実学を目指し、日本で初めてできた学部で期待が大きいだけに。

魅力ある大学でい続けてほしい

仲村　では、最後のまとめとして、これからの明海大学に期待することを一言ずつお願いします。

谷　自分の子どもの出身校がなくなるなんてことは、絶対にあってほしくないです。自分の子どもはしっかり勉強して、就職もしてくれると思うのですが、いい後輩がどんどん入ってくる、魅力ある大学であってほしいですね。大学は全国に700校あると聞いています。それが500に減ってもおかしくないくらいに厳しい状況であることも知っ

ています。有名大学が必死で宣伝し、早い時期から学生集めもしている中で、明海大学は宣伝しなさすぎではないかと心配しています。HT 学部と不動産学部はさらに特徴を伸ばしてもっと有名になってほしいし、経済学部など既存の学部も、明海大らしい切り口でやってほしいと思います。なにしろ大学を活性化してほしいと願っています。

篠原　地区懇談会についてですが、開催の地域が多くなると事務局に負担がかかるので、現地でのやりくりを評議員にシフトするなど、各地の評議員の協力を得られればいろいろな可能性が出てくると思います。そして、コンパクトな地区懇談会を 47 都道府県でそれぞれ開催してはどうかなと。そうすれば明海大の名前も、隅々まで行き渡り、ケアの厚い大学というアピールもできます。

篠原康光氏

鈴木　この勉強をするなら明海大学、この仕事をするなら明海大学と思える大学になってほしいですね。教育後援会としては、学生たちが思うような学生生活を送れるように援助をできればいいと思います。お金をばらまくだけでなく、目的意識をもった人たちを援助したいですね。浦安市は地方からみたらうらやましい街であることは間違いない。そのメリットをもっと活用できる大学であってほしい。それが学生のためであり、ひいては大学のためにもなるはずです。

横濱　私は体育会系なので、明海大からオリンピック選手を出すことが夢です。そのために、このほどできた体育会にがんばっていただきたいし、我々も応援していきたいですね。大学は勉強するだけでなく、心の鍛錬や社会性を身につける場所でもあります。社会で生き抜く力を、スポーツを通じて身につけてほしいし、その結果、日本代表に選ばれるような選手が育ち、明海大学も全国レベルになったらと思います。千葉県にはサッカーや陸上のいい選手がたくさんいるので、明海大学に入ってもらえるよう働きかけてもらえたらいいですね。浦安のように立地がいいところは、寮がなくても大丈夫だと思います。いい選手はいい指導者に集まるもの。ですから、いい指導者を確保していただくことも大学側にお願いしたいですね。

中田　大学が体育会を作って努力していますから、期待して見守りましょう。

大学の PR に、役員 OB の力を結集

山内　活動した年代は違いますが、歴代の会長さんとは親近感をもって話ができました。こういう場は大事にしたいですね。圧力団体になってはいけないが、大学側に必要なことは言わなければいけない場面が必ずあるはず。できれば年に 1 回くらいは、会長をやってきた人たちが集まって、できることをやったらどうでしょうか。例えば、地区懇談会を全国に広げようという話も出ています。方向性としてはいいと思うが、役員・事務局の負担を考えると物理的に無理というようなときは、我々を使っていただきたい。時々駆り出されて行って、学校の情報を得、現場を体感できるのはありがたい。自然にお手伝いができ、意見交換ができればいいと思うし、そういうことができる時期なのではないかと思います。

谷　前回お集まりいただいた会長さんたちからも 1 年に 1 回くらいは集まる場をつくりたいという意見がありました。

山内　やり残してきたけれど、あの問題はどうなっているのかって、気になっているものもあります。気軽に聞ける場があればありがたいです。

中田　私のときは学生支援が使命ということで活動してきましたが、今日お話を伺っていると社会情勢が変わってきて、それだけでは教育後援会の役目は十分ではないかもしれません。その時代の

ニーズも合わせた組み立てが必要だなと。特に明海大学は若い大学なので、教育後援会の果たす役割はこれからたくさんあると思います。私の出身大学はもう100年以上の歴史があるので、同窓生が中心になってやっていますが、そこへいくまでの橋渡しは必要。私は学生と大学内しか見ていませんでしたが、これからは企業とか、行政とか、地域社会、近隣との連携も考えながら、全国に散らばった評議員を束ねて組織化することも考えていく時かなと思います。

谷　今ならできるかもしれませんね。

篠原　苦労して選出した評議員を4年間で「はい終わり」ではもったいないですよ。

谷　役員を引き受けてくださった方々ですから、卒業しても負担のない範囲でやりますよと、言っていただけると思います。20周年を記念して、掘り起こしをしてみましょうか。

篠原　これからはOB会的な組織を立ち上げてフォローしてもいいんじゃないでしょうか。

仲村　務氏

仲村　第1回、第2回と座談会をやってみて、皆さん、明海大学を一層魅力のある大学にしていきたい、そのためには協力を惜しまないというお考えは共通のようです。OBの皆さんには、現役役員・評議員の大きな後ろ盾となっていただくとともに、大学経営に対する提言もできる組織として力を蓄積していきたいと思います。

この2回の記念座談会と併行し、私ども創立20周年記念事業実行委員会では現役在学生の保護者を対象とした「未来の明海大学を考える」アンケート調査を実施中です（本誌30〜35ページに結果を紹介）。ここで出された貴重な意見・意向は、ぜひ今後の活動指針として反映させていきたいと考えています。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

2008年1月17日オリエンタルホテル東京ベイ

教育後援会のあゆみ■

教育後援会の20年間

※色字は大学行事関係

1988(昭和63)年度

4月 1日　千葉県浦安市に「外国語学部(第一部・第二部)」「経済学部(第一部・第二部)」を設置し大学名を「明海大学」と変更
4月16日　明海大学浦安キャンパス1期生入学式(入学生546名)
10月26日　「明海大学浦安キャンパス父兄会」発足
役員会　初代会長に岡本長吉氏就任
父兄会会則制定(昭和63年4月1日施行)
11月 4日～ 6日　第1回白亜祭

1989(平成元)年度

4月 4日　第1回役員会
4月10日　入学式(入学生507名)
4月30日　第2回役員会
5月31日　第3回役員会
6月24日　第4回役員会
8月 9日　第5回役員会
11月 3日～5日　第2回白亜祭
11月24日　第6回役員会

1990(平成2)年度

4月 1日　外国語学部(第一部・第二部)に「教職課程」を設置
4月10日　入学式(入学生1004名)
4月15日　第1回役員会
4月17日　明海大学20周年記念式典挙行
7月 4日　第2回役員会
7月 7日　第3回役員会
9月25日～26日　岩原スキー場視察
9月28日　第4回役員会
10月13日　20周年記念講演会(千代田区公会堂)
11月 3日～5日　学園祭
11月21日　厚生施設契約(ホテルガーデンクレス)
12月22日　第5回役員会
12月25日　第6回役員会

1991(平成3)年度

4月 1日　「別科日本語研修課程」を設置
4月10日　入学式(入学生1156名)
5月21日　第1回役員会
6月17日　第2回役員会
7月 6日　第3回役員会
7月30日　第4回役員会
10月30日　第5回役員会
11月 2日～ 4日　学園祭
11月 8日　第6回役員会
大学役職者と懇談会開催
厚生施設として契約(日本エアロビクスセンター)
12月21日　第7回役員会
「父兄会」を「教育後援会」に変更
12月25日　第8回役員会
3月19日　第1回学位記授与式(卒業生676名)
卒業生に記念品を贈呈
第1回謝恩会援助

1992(平成4)年度

4月 1日　「不動産学部(第一部・第二部)」を設置
4月10日　入学式(入学生1615名)
5月26日　第1回役員会
第2代会長に安宅武男氏就任
初代名誉会長に岡本長吉氏就任
7月17日　つま恋下見(厚生施設)
9月 4日　第2回役員会　評議員制を審議
9月 8日～10日　リーダース研修会援助
10月16日　第3回役員会　評議員選任の協議
3月23日　学位記授与式(卒業生704名)
記念品贈呈
3月27日　第4回役員会

1993(平成5)年度

4月 1日　オープンカレッジを開設
　　安宅武男氏　事務長に就任
4月10日　入学式（入学生1630名）
5月28日　第1回役員会
　　第3代会長に黒田学氏就任
8月20日　第2回役員会
10月16日　第3回役員会
10月24日　第1回評議員会開催
11月 5日～7日　明海祭
12月10日　第4回役員会
2月 3日　第5回役員会
3月23日　学位記授与式（卒業生849名）
　　記念品贈呈

1994(平成6)年度

4月 1日　大東百合子氏明海大学学長に就任
4月 9日　入学式（入学生1601名）
5月13日　第1回役員会　新役員・評議員推薦選出
5月29日　第2回評議員会開催
　　第4代会長に白石雅章氏就任
　　教育後援会奨学金制度制定
6月29日　教育後援会主催　講演会開催
　　講師・大野幹夫氏
7月 2日　第2回役員会
8月 1日　教育後援会機関紙「教育後援会だより」
　　創刊号発行
8月19日　第3回役員会
9月 4日～6日　国際交流サマーセッション
　　（伊豆・天城）
9月 9日～10日　朝日大学視察
9月11日　東北地区父兄懇談会（福島市）開催
10月15日　第4回役員会
　　学友会・同窓会との懇談会開催
11月 4日～6日　明海祭
12月 1日　「教育後援会だより」第2号発刊
12月10日　第5回役員会
12月25日～27日
　　リーダース研修会（山梨・休暇村）
2月10日　第6回役員会
3月18日　第7回役員会　OB役員との懇談会開催
3月25日　「教育後援会だより」第3号発刊
3月23日　学位記授与式（卒業生964名）

1995(平成7)年度

4月10日　入学式（入学生1686名）
4月22日　第1回役員会
5月28日　第3回評議員会開催
　　第5代会長に丹下剛氏就任
6月17日　第2回役員会
6月25日　契約厚生施設視察
　　（ホテルアルパイン・ガーデンクレス）
7月28日　第3回役員会　大学役職者との懇談会
7月31日～8月 2日
　　学友会リーダース研修会（秩父）
8月 1日　「教育後援会だより」第4号発刊
9月 3日～5日　国際交流サマーセッション
　　（山梨・清里）
9月 9日～10日
　　歯学部父兄会役員との合同懇談会開催
10月14日　第4回役員会
11月 3日～ 5日　明海祭
11月19日　東北地区（郡山市）・北陸地区（新潟市）
　　懇談会同日開催
12月 3日　厚生施設（アルパイン）視察
12月15日　新春対談「21世紀の国際化・情報化社
　　会へ向けて」
1月20日　教育後援会機関紙「潮風」
　　（新教育後援会だより）第5号発刊
　　（題字／宮田慶三郎理事長）
1月20日　第5回役員会
2月10日　第6回役員会
3月16日　第7回役員会
3月23日　学位記授与式（卒業生1366名）

1996(平成8)年度

4月 1日　渡邊省吾氏　事務長に就任
4月10日　入学式（入学生1714名）
4月27日　第1回役員会
5月23日　臨時役員会
5月25日　評議員会開催
6月27日　教育後援会講演会
7月10日　「潮風」第6号発刊
7月19日　第2回役員会
9月 4日～6日　国際交流サマーセッション
　　（伊豆・天城）
9月25日　大学役職者との懇談会開催

9月28日　関東地区懇談会開催
10月12日　第3回役員会
10月26～3日　アメリカ大学視察研修
（ペンシルバニア他）（7名参加）
11月 2日～ 4日　明海祭
11月10日　東海地区（静岡市）懇談会を初開催
11月21日　新春対談「21世紀へ向けての夢と展望」
11月23日　北陸地区（新潟市）懇談会開催
11月24日　東北地区（郡山市）懇談会開催
12月 7日～8日　第4回役員会
アルパイン厚生施設視察
12月15日　新春座談会「21世紀への展望－魅力ある大学創り－」
1月20日　「潮風」第7号発刊
2月 8日　第5回役員会
3月22日　学位記授与式（卒業生1321名）

1997（平成9）年度

4月10日　入学式（入学生1698名）
4月26日　第1回役員会
5月25日　評議員会開催
第6代会長に加藤想士氏就任
6月14日　第2回役員会
7月20日　「潮風」第8号発刊
7月29日～31日
学友会リーダース研修会（益子町）
7月31日　大学役職者との懇談会開催
9月 3日～5日　国際交流サマーセッション
（山梨・富士）
9月13日　第3回役員会
9月28日　東海地区（静岡市）父母懇談会開催
9月28日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
10月18日　第4回役員会
10月24日～30日　ニュージーランド大学視察研修
（ウェリントン教育大学）
10月25日　関東地区父母懇談会開催
11月 1日～3日　明海祭
11月24日　東北地区（福島市）父母懇談会開催
12月 6日　第5回役員会
12月15日　新春座談会
「21世紀へ向けて本物が問われる時代」
1月20日　「潮風」第9号発刊
3月23日　学位記授与式（卒業生1342名）

1998（平成10）年度

4月 1日　「大学院応用言語学研究科・経済学研究科・不動産学部研究科」修士課程を設置
4月10日　入学式（入学生1793名）
4月25日　第1回役員会
5月24日　評議員会開催
6月13日　臨時役員会
7月20日　「潮風」第10号発刊
7月29日～31日　学友会リーダース研修会（塩原）
8月 1日　臨時役員会
9月12日　第2回役員会
9月23日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
10月 4日　日中平和友好条約締結20周年記念
全国日本学生交流大会（北京）
10月17日　東北地区（福島市）父母懇談会開催
11月 1日　教育後援会10周年記念感謝の会及び祝賀パーティー開催
11月 1日～3日　明海祭
11月 8日　東海地区（静岡市）父母懇談会開催
11月21日　関東地区父母懇談会開催
1月20日　「潮風」第11号発刊
3月23日　学位記授与式（卒業生1368名）

1999（平成11）年度

4月 1日　髙倉　翔氏　明海大学学長に就任
4月 8日　入学式（入学生1710名）
4月24日　第1回役員会
5月23日　評議員会開催
第7代会長に山岡達哉氏就任
7月 3日　第2回役員会
7月20日　「潮風」第12号発刊
8月 2日～5日　学友会リーダース研修会（草津町）
9月 1日～3日　国際交流サマーセッション
（栃木・那須）
9月11日　第3回役員会
9月18日　東北地区（福島市）父母懇談会開催
10月10日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
10月23日　関東地区父母懇談会開催
11月 5日～7日　明海祭
11月20日　東海地区（静岡市）父母懇談会開催
12月 2日　第3期工事のトレーニングセンター、クラブハウス、グラウンドが完成

12月 4日　第4回役員会
12月15日　新春座談会
「21世紀へはばたく明海大学」
1月20日　「潮風」第13号発刊
2月 5日　第5回役員会
3月23日　学位記授与式（卒業生1365名）
3月25日　第6回役員会

2000(平成12)年度

4月 1日　大学院応用言語学研究科
不動産学研究科博士後期課程を設置
4月 8日　入学式（入学生1699名）
5月17日　明海大学創立30周年記念式典・祝賀会
開催（東京會舘）
5月28日　評議員会開催
第8代会長に稲葉光治氏就任
7月 3日　第2回役員会
7月20日　「潮風」第14号発刊
8月 1日～3日　リーダース研修会
（千葉・白子）
9月 6日～8日　国際交流サマーセッション
（山梨・八ヶ岳）
9月24日　東北地区（福島市）父母懇談会開催
9月24日　東海地区（静岡市）父母懇談会開催
10月29日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
11月 3日～5日　明海祭
11月11日　関東地区父母懇談会開催
12月15日　新春座談会
「21世紀に飛躍する明海大学」
1月15日　新テニスコート5面完成
1月20日　「潮風」第15号発刊
3月23日　学位記授与式（卒業生1382名）

2001(平成13)年度

4月 1日　福山武夫氏　事務長に就任
4月 9日　入学式（入学生1666名）
4月28日　第1回役員会
5月26日　評議員会開催
第9代会長に中田俊一氏就任
6月30日　第2回役員会
7月20日　「潮風」第16号発刊
8月 1日～3日　第1回学友会サマーキャンプ
（茨城・潮来）
9月 8日　第3回役員会
9月23日　関東地区（3年次）父母懇談会開催
10月 7日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
10月13日　東北地区（福島市）父母懇談会開催
11月 2日～4日　明海祭
11月11日　東海地区（静岡市）父母懇談会開催
12月 1日　第4回役員会
12月15日　新春対談
「真の相互理解のために今必要なことは」
1月20日　「潮風」第17号発刊
1月26日　第5回役員会
2月23日　立命館大学びわこ・くさつキャンパス
視察研修
3月23日　学位記授与式（卒業生1466名）
卒業パーティー
3月30日　第6回役員会

2002(平成14)年度

4月 1日　後援会会費改定
4月 3日　入学式（入学生1651名）
4月20日　第1回役員会
6月 1日　評議員会開催
第10代会長に山内薫氏就任
6月22日　第2回役員会
7月20日　「潮風」第18号発刊
9月 4日～6日
学友会サマーキャンプ(福島・いわき)
9月 7日　第3回役員会
9月21日　東北地区（福島市）父母懇談会開催
9月24日～29日
韓国の大学視察研修実施
10月13日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
10月26日　関東地区父母懇談会開催
11月 2日～4日　明海祭
11月 9日　東海地区（清水市）父母懇談会
12月 7日　第4回役員会
12月15日　新春座談会
「これからの国際社会に対応するには」
1月20日　「潮風」第19号発刊
1月25日　第5回役員会
3月15日　第6回役員会
3月22日　学位記授与式（卒業生1369名）
卒業パーティー

2003(平成15)年度

4月 1日　教育後援会ホームページ開設
4月 3日　入学式（入学生1566名）
5月31日　評議員会開催
　　第11代会長に大塚博行氏就任
6月14日　契約厚生施設視察（掛川市「つま恋」）
7月20日　「潮風」第20号発刊
8月 2日～4日
　　学友会サマーキャンプ（群馬・水上）
9月20日　東北A地区（盛岡市）父母懇談会新規開催
9月27日　東北B地区（福島市）父母懇談会開催
10月13日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
10月19日　関東地区（3年次）就職懇談会初開催
10月24日　立命館アジア太平洋大学視察研修
11月 1日～3日　明海祭
11月 9日　東海地区（静岡市）父母懇談会開催
12月 6日　関東地区（2年次）父母懇談会開催
12月18日　新春座談会
　　「これからの明海大学を語る」
1月20日　「潮風」第21号発刊
3月23日　学位記授与式（卒業生1360名）
　　卒業パーティー
3月23日　教育後援会学生表彰式初めて開催
3月31日　借上集合住宅「ベイグランデ」10年間の契約期間満了で解約

2004(平成16)年度

4月 3日　入学式（入学生1398名）
4月17日　第1回役員会
5月29日　評議員会開催
　　第12代会長に横濱孝雄氏就任
6月12日　第2回役員会・契約厚生施設視察
　　（生命の森リゾート）
7月20日　「潮風」第22号発刊
9月 2日～4日
　　学友会サマーキャンプ(栃木・鬼怒川)
9月11日　第3回役員会
9月18日　北陸地区（新潟市）父母懇談会開催
9月25日　東北A地区（盛岡市）父母懇談会開催
10月10日　東北B地区（福島市）父母懇談会開催
10月23日　関東地区(3年次）就職懇談会開催
10月30日　関東地区(2年次）父母懇談会開催
11月 5日～7日　明海祭
11月20日　東海地区（静岡市）父母懇談会開催
12月13日　新春座談会
　　「社会の変化に応えられる大学」
12月18日　第4回役員会
1月20日　「潮風」第23号発刊
1月22日　第5回役員会
2月15日～22日
　　アメリカ（UCLA/UCF）大学視察研修
3月12日　第6回役員会
3月23日　学位記授与式（卒業生1335名）
　　卒業パーティー
3月23日　教育後援会学生表彰式開催

2005(平成17)年度

4月 1日　「ホスピタリティ・ツーリズム学部」を設置
4月 2日　入学式（入学生1344名）
4月16日　第1回役員会
5月28日　評議員会開催
　　第13代会長に鈴木陽夫氏就任
6月18日　関東地区（3年次）就職懇談会開催
6月25日　第2回役員会　契約厚生施設視察
　　（ホテルアルパイン・ガーデンクレス）
7月20日　「潮風」第24号発刊
9月 5日～7日　学友会サマーキャンプ
　　（静岡・下田）
9月19日　北陸地区（新潟市）教育懇談会開催
9月23日　東北A地区（盛岡市）教育懇談会開催
10月22日　東海地区（静岡市）教育懇談会開催
10月 7日～8日　金沢工業大学視察研修
10月29日　第3回役員会
11月 4日～6日　明海祭
11月20日　東北B地区（福島市）教育懇談会開催
12月 4日　関東地区（2年次）教育懇談会開催
12月15日　新春座談会「選ばれる大学を目指して」
12月17日　第4回役員会
1月14日　第5回役員会
1月20日　「潮風」第25号発刊
3月11日　第6回役員会
3月23日　学位記授与式（卒業生1343名）
　　卒業パーティー
3月23日　教育後援会学生表彰式開催

2006(平成18)年度

4月 3日　入学式（入学生1276名）
4月22日　第1回役員会
6月 3日　評議員会開催
　　第14代会長に篠原康光氏就任
6月17日　関東地区（3年次）就職懇談会開催
7月 1日　体育会発足
7月 8日　第2回役員会
　　契約厚生施設視察(生命の森リゾート)
7月20日　「潮風」第26号発刊
8月21日～23日　学友会サマーキャンプ
　　（群馬・水上）　後援会参加
8月21日～28日　イギリスの大学視察研修
9月 1日　明海大学セミナーハウスをオープン
　　（千葉・勝浦）
9月18日　北陸地区（新潟市）教育懇談会開催
10月 9日　東北A地区（盛岡市）教育懇談会開催
10月21日　東海地区（静岡市）教育懇談会開催
10月28日　第3回役員会
11月 3日～5日　明海祭
11月12日　東北B地区（福島市）教育懇談会開催
11月18日　関東地区（2年次）教育懇談会開催
12月 1日　「不動産研究センター」を設置
12月16日　第4回役員会
1月13日　第5回役員会
1月20日　「潮風」第27号発刊
2月24日　九州地区（福岡市）教育懇談会初開催
3月17日　第6回役員会
3月23日　学位記授与式（卒業生1293名）
　　卒業パーティー
　　教育後援会学生表彰式開催

2007(平成19)年度

4月 3日　入学式（入学生1293名）
4月21日　第1回役員会
6月 2日　評議員会開催
　　第15代会長に谷昭夫氏就任
6月16日　関東地区（3年次）就職懇談会開催
7月 7日　第2回役員会　契約厚生施設視察
　　（ホテルアルパイン・ガーデンクレス）
7月20日　「潮風」第28号発刊
9月 4日～6日　学友会サマーキャンプ
　　（栃木・鬼怒川）
9月16日　北陸地区（新潟市）教育懇談会開催
9月28日　中京大学視察研修
9月30日　信州地区（長野市）教育懇談会初開催
10月 6日　第3回役員会
10月 8日　東北A地区（盛岡市）教育懇談会開催
10月20日　東海地区（静岡市）教育懇談会開催
11月 2日～4日　明海祭
11月11日　東北B地区（福島市）教育懇談会開催
11月17日　関東地区（2年次）教育懇談会開催
11月23日　九州地区（福岡市）教育懇談会開催
12月15日　新春座談会　第4回役員会
1月12日　第5回役員会
1月20日　「潮風」第29号発刊
3月15日　第6回役員会
3月22日　学位記授与式（卒業生1203名）
　　卒業パーティー
3月22日　教育後援会学生表彰式開催

2008(平成20)年度　（予定含む）

4月 1日　安井利一氏　明海大学学長に就任
4月 3日　入学式（入学生1273名）
4月19日　第1回役員会
5月24日　20周年記念準備会
5月31日　評議員会　創立20周年記念祝賀会
6月14日　関東地区就職懇談会
7月 5日　第2回役員会及び厚生施設視察
8月　　国外大学視察
9月 2日～3日　学友会サマーキャンプ
9月14日　北陸地区教育懇談会開催
9月20日　第3回役員会
9月28日　信州地区教育懇談会開催
10月 5日　東北B地区教育懇談会開催
10月13日　東北A地区教育懇談会開催
11月 1日～3日　明海祭
11月 9日　東海地区教育懇談会開催
11月15日　関東地区2年次教育懇談会開催
11月23日　九州地区教育懇談会開催
12月　　新春座談会
12月13日　第4回役員会
2月 7日　第5回役員会
3月14日　第6回役員会
3月23日　学位記授与式
　　卒業パーティー
3月23日　教育後援会学生表彰式開催

事業の変遷■

事業 ＼ 年度	1988年 昭和63年	1989年 平成元年	1990年 平成2年	1991年 平成3年	1992年 平成4年	1993年 平成5年	1994年 平成6年	1995年 平成7年	1996年 平成8年
明海大学理事長	宮田慶三郎	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	宮田　侑
明海大学学長	多和敏一	〃	〃	〃	〃	〃	大束百合子	〃	〃
教育後援会　会長	岡本長吉	〃	〃	〃	安宅武男	黒田　学	白石雅章	丹下　剛	〃
教育後援会　事務長	—	—	—	—	—	安宅武男	—	—	渡邊省吾
教育後援会の主体的事業									
評議員会	父兄会	〃	〃	〃	〃	第1回	第2回	第3回	第4回
役員会	6回	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
地区教育懇談会　東北B地区	—	—	—	—	—	—	福島市	郡山市	郡山市
地区教育懇談会　北陸地区	—	—	—	—	—	—	—	新潟市	新潟市
地区教育懇談会　関東地区	—	—	—	—	—	—	—	—	浦安市
地区教育懇談会　東海地区	—	—	—	—	—	—	—	—	静岡市
地区教育懇談会　東北A地区	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地区教育懇談会　九州地区	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地区教育懇談会　信州地区	—	—	—	—	—	—	—	—	—
就職対策懇談会	—	—	—	—	—	—	—	—	—
広報誌発刊　後援会だより・「潮風」	—	—	—	—	—	—	①〜③号	④号・5号	6号・7号
広報誌発刊　新春対談会テーマ	—	—	—	—	—	—	—	21世紀の国際化・情報化社会へ向けて	21世紀への展望ー魅力ある大学を
教育後援会奨学金	—	—	—	—	—	—	新制度3人	12人	17人
借上ベイグランデ・住宅相談・紹介	—	—	—	—	—	借上契約	〃	〃	〃
卒業記念品贈呈	—	—	—	防水腕時計	〃	〃	〃	〃	〃
卒業アルバム購入・贈呈	—	—	—	注文購入	〃	〃	〃	〃	〃
国内外の大学施設等視察	—	—	—	—	—	—	—	—	アメリカ
国内外の大学施設等視察	—	—	—	—	—	—	朝日大視察	歯学部視察	—
教育後援会ホームページ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学生表彰式（表彰者数）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学生の主体的諸活動への支援									
課外活動団体数	51	56	69	70	72	82	88	102	102
学園祭　白亜祭・学園祭	白亜祭1回	〃2回	〃3回	学園祭4回	明海祭〃5回	〃6回	〃7回	〃8回	〃9回
学園祭　テーマ	白亜祭	Go Ahead	prologue	Mの本気	アカデミックナッツ	MAKE.‥	FULL‥	JACK‥	F.commu‥
サマーセッション・サマーキャンプ	—	—	—	—	—	リーダース研修	〃（休暇村）	〃（秩父）	〃
新入生歓迎会	—	—	—	—	—	昼食（サンドイッチ・お茶）			〃
契約厚生施設利用者数	—	—	—	—	—	512	144	712	958
契約厚生施設視察	—	—	—	—	—	—	アルパイン	—	—
スキー・スノーキャンプ開催	—	—	—	—	—	—	第1回開催	第2回	第3回
謝恩会・卒業パーティー	—	—	—	謝恩会	〃	〃	〃	〃	卒業記念パーティー
大学が実施する事業への支援									
長短期学生海外留学研修派遣総数	—	—	72人	83人	87人	95人	50人	57人	130人
就職対策（就職率）	—	—	—	—	—	86.2%	80.4%	84.2%	90.9%
少人数教育援助クラス数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
課外活動指導者援助数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
体育会活動部数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ピアサポートセミナー会場・参加人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
施設・備品等の寄贈				吹奏楽部楽器補助	吹奏楽部コスチュームホールクロック	学内ベンチ	明海祭スタッフジャンパークラブハウス修繕	トレーニング器具	共同研究室印刷機一式
教育後援会　トピックス	明海大学浦安キャンパス「父兄会」発足10/26						同窓会・後援会懇親会、OB会との懇談会	歯学部父兄会と合同懇親会	
キャンパス　設置・設備等	浦安市に2学部を設置し大学名を明海大学に		明海大学創立20周年記念式典祝賀会外国学部に教職課程を設置	別科日本語研修課程を設置	不動産学部を設置	講義棟増設オープンカレッジを開設			
キャンパス　入学生数（留学生数）	546名（8）	507名（32）	1004名（44）	1156名（101）	1615名（125）	1630名（160）	1601名（182）	1686名（291）	1714名（336）
キャンパス　学位記授与式	—	—	—	第1期生	第2期生	第3期生	第4期生	第5期生	第6期生
キャンパス　卒業生数	—	—	—	676名	704名	849名	964名	1366名	1321名

1997年 平成9年	1998年 平成10年	1999年 平成11年	2000年 平成12年	2001年 平成13年	2002年 平成14年	2003年 平成15年	2004年 平成16年	2005年 平成17年	2006年 平成18年	2007年 平成19年	2008年 平成20年
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	髙倉　翔	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	安井利一
加藤想士	〃	山岡達哉	稲葉光治	中田俊一	山内　薫	大塚博行	横濱孝雄	鈴木陽夫	篠原康光	谷　昭夫	仲村　務
〃	〃	〃	〃	福山武夫	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
福島市	福島市	福島市	福島市	福島市(56名)	福島市(34名)	福島市(39名)	福島市(37名)	福島市(30名)	福島市(26名)	福島市(38名)	福島市（　）
新潟市	新潟市	新潟市	新潟市	新潟市(49名)	新潟市(40名)	新潟市(37名)	新潟市(29名)	新潟市(40名)	新潟市(20名)	新潟市(17名)	新潟市（　）
浦安市	浦安市	浦安市	浦安市	浦安市(181名)	浦安市(192名)	浦安市(150名)	浦安市(169名)	浦安市(182名)	浦安市(111名)	浦安市(157名)	浦安市（　）
静岡市	静岡市	静岡市	静岡市	静岡市(32名)	清水市(35名)	静岡市(27名)	静岡市(26名)	静岡市(25名)	静岡市(18名)	静岡市(31名)	静岡市（　）
—	—	—	—	—	—	盛岡市(21名)	盛岡市(23名)	盛岡市(26名)	盛岡市(18名)	盛岡市(28名)	盛岡市（　）
—	—	—	—	—	—	—	—	—	福岡市(27名)	福岡市(22名)	福岡市（　）
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	長野市(17名)	長野市（　）
—	—	—	—	—	—	初開催(130名)	浦安市(191名)	浦安市(201名)	浦安市(188名)	浦安市(183名)	浦安市（　）
8号・9号	10号・11号	12号・13号	14号・15号	16号・17号	18号・19号	20号・21号	22号・23号	24号・25号	26号・27号	28号・29号	30号・31号
国際化、情報化社会に対応できる大学	—	21世紀へはばたく明海大学	21世紀に飛する明海大学	国際交流の進む明海大学	これからの国際社会に対応するには	これからの明海大学を語る	明海大学の新しい歩み	選ばれる大学を目指して	明海大学の部活動を活発にするには	明海大学のサークル・部活動を活発にするには	
36人	38人	31人	74人	97人	61人	89人	68人	39人	31人	22人	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	借上げ集合住宅契約期間満了	—	—	—	—	
〃	〃	〃	オリジナル腕時計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	贈呈	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	贈呈動画	〃	
—	中国	—	ニュージーランド(2)	—	韓国（6校）	—	アメリカ(2校)	—	イギリス(3校)	—	
—	—	—	—	立命館大学 草津キ視察 （17名参加）	—	立命館アジア太平洋大学視察 （12名参加）	—	金沢工業大学視察 （10名参加）	—	中京大学視察 （11名参加）	
—	—	—	—	—	—	後援会HP開設	〃	〃	〃	〃	
—	—	—	—	—	—	学生表彰式開催(24名)	〃（35名）	〃（25名）	〃（28名）	〃（28名）	
103	88	86	68	59	71	78	79	75	62	62	
〃10回	〃11回	〃12回	〃13回	〃14回	〃15回	〃16回	〃17回	〃18回	〃19回	〃20回	
OpenS‥	爆発予告‥	水・金・地‥	単純明海‥	明海的‥	We are‥	きっかけは‥	花	笑顔	乱舞	きらり	
〃（益子）	〃（塩原）	〃（草津）	〃（白子町）	サマーキャンプ(潮来)	〃（いわき）	〃（水上）	〃（鬼怒川）	〃（下田）	〃（水上）	〃（日光）	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
1023	759	618	725	794	826	987	1076	551	405	460	
—	—	アルパイン	アルパイン	生命の森リゾート	つま恋	生命の森リゾート	アルパイン	生命の森リゾート	アルパイン	アルパイン	
第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回記念	第11回	第12回	第13回	第14回	
〃	卒業パーティー	〃	〃	〃1000名	〃1160名	〃1000名	〃	〃	〃	〃	
123人	126人	169人	167人	179人	279人	261人	313人	306人	271人	271人	
92.7%	89.4%	81.90%	86.40%	83.90%	82.50%	79.30%	81.80%	91.20%	87.50%		
—	—	—	—	—	45	61	72	37	59	74	
—	—	—	—	2名	5名	9名	4名	9名	8名	7名	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	体育会発足(3部)	体育会(3部)	
—	—	—	—	—	—	森林公園25名	鬼怒川　28名	塩原　33名	箱根　31名	勝浦　10名	
キャノン複写機 空気清浄機 ファイルセンター	バーコーダーベンチ ビデオ160巻 パソコン4. サクラ3	ターンテーブル10脚		木製ベンチ7台	野外卓10台	学食ショーケース	得点版、マット、ゴールネット スクラムマシン	救急担架 ヨット部品	講演台	学食、 TV・DVD	野外ステージ ジャカランダ
	教育後援会 10周年記念感謝の会　11/1				教育後援会 会費改定			同窓会・後援会懇談会	同窓会15周年記念式典・祝賀パーティー 11/3	同窓会・後援会懇談会　3/8	教育後援会創立20周年記念祝賀会（5/31）
	大学院3研究科修士課程を設置	トレーニングセンター、クラブハウス、グラウンド完成	創立30周年式典 新図書館完成、 テニスコート増設 大学院2研究科に博士課程設置		図書館市民 開放事業締結			ホスピタリティ・ツーリズム学部設置 PDI浦安開設	グラウンド人工芝グウランド整備 勝浦にセミナーハウス	テニスコート バスケコート	校舎整備 校庭整備
1698名 (374)	1793名 (411)	1710名 (463)	1699名 (486)	1666名 (526)	1651名 (645)	1566名 (714)	1398名 (733)	1344名 (738)	1276名 (668)	1293名 (617)	1274名
第7期生	第8期生	第9期生	第10期生	第11期生	第12期生	第13期生	第14期生	第15期生	第16期生	第17期生	
1342名	1368名	1365名	1382名	1466名	1367名	1360名	1335名	1343名	1293名	1203名	

歴代役員・現役役員■

	会　長	役　員 ※4年次在籍者のみ
1988（昭和63）年度	初代会長 岡本　長吉	岡本　長吉 池下　龍 小島　照信 大村　知義 田上　澄子
1989（平成元）年度		安宅　武男 小椋　祐二 北澤　章男 久保田　勝康 鳴島　幸次
1990（平成２）年度		黒田　学 三原　憲三 藤森　明 高梨　光枝 武林　信男
1991（平成３）年度		白石　雅章 石井　紀男 松信　尭 五十嵐　蔵 柳下　典世
1992（平成４）年度	２代会長 安宅　武男	貝原　和年 野田　雅子 原　幸子 柳田　雅子 中島　嶺子
1993（平成５）年度	３代会長 黒田　学	丹下　剛 大竹　キヌ子 内藤　征男 川口　一郎 小畑　美恵子
1994（平成６）年度	４代会長 白石　雅章	小林　由美子 鈴木　久子 山田　由美子 軽部　節子 秦　誠三
1995（平成７）年度	５代会長 丹下　剛	加藤　想士 新井　敏男 神嶋　博 若山　照夫 清藤　信雄
1996（平成８）年度		山岡　達哉 金子　秀行 松井　恵子 芝野　日出男 佐藤　一生
1997（平成９）年度	６代会長 加藤　想士	稲葉　光治 木村　俊雄 泉沢　千代子 峯村　庸子 大塚　久美子

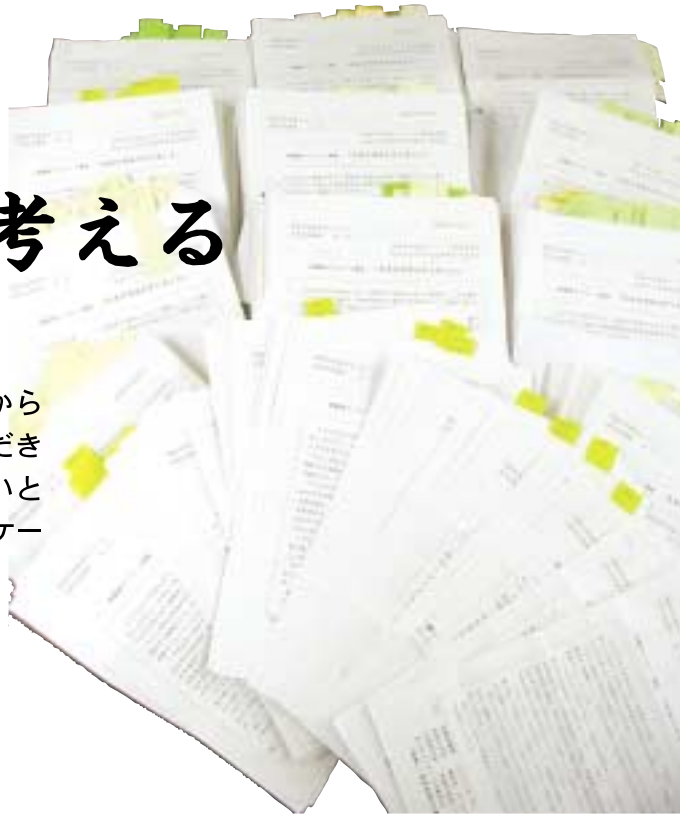
1998（平成10）年度		中田　俊一 佐藤　啓 酒井　正幸 倉持　恒雄 長谷川　洋子
1999（平成11）年度	7代会長 山岡　達哉	山内　薫 矢野　日出子 仲田　建治郎 吾郷　真知子 大石　澄子
2000（平成12）年度	8代会長 稲葉　光治	大塚　博行 溝口　正孝 石井　満枝 田中　治江 笠井　俊秀
2001（平成13）年度	9代会長 中田　俊一	横濱　孝雄 奥山　藤雄 伊藤　恵子 加藤　真知子 岡崎　征朗
2002（平成14）年度	10代会長 山内　薫	鈴木　陽夫 宇田川　芳子 佐々木　守 醍醐　紀美子 横山　容子
2003（平成15）年度	11代 会長 大塚　博行	篠原　康光 服部　重明 阿部　美佐子 高崎　真理子
2004（平成16）年度	12代会長 横濱　孝雄	谷　昭夫 東原　和男 荻野　優子 和泉　全子 綿屋　美知世
2005（平成17）年度	13代会長 鈴木　陽夫	仲村　務 藤井　辰巳 岡澤　崇行 近藤　弘子 冨永　マスエ
2006（平成18）年度	14代会長 篠原　康光	釘崎　徹 谷口　恵子 木村　周一 栗本　真弓 三浦　斗紀子
2007（平成19）年度	15代会長 谷　昭夫	印南　彰雄 冨田　美江 梅澤　澄江 秋元　茂樹 宮本　知子
2008（平成20）年度	現会長 仲村　務	金本　正和 永井　通 宮本　貞子 佐藤　恵子 吉澤　真貴子

〈物故役員〉　安宅武男　金子政行　大塚勝明

（敬称略）

保護者アンケート結果■

未来の明海大学を考える



20周年の節目にあたり、会員である保護者の皆様から明海大学の更なる発展を願う忌憚のないご意見をいただき今後の教育後援会事業企画の大きな指針にしていきたいと考え、教育後援会を設立して以来初となる「保護者アンケート調査」を実施しました。

◇調査対象
　教育後援会会員　約4460人（海外・住所不明を除く）
◇調査方法
　2008年1月発行「潮風」に同封しメール便にて発送／郵送回収
◇調査期間　2008年1月24日～2月15日
◇回収数（率）　1076人（約24％）

〔調査回答者の概要〕

●学科	回収数	回収率
日本語学科	70	26%
英米語学科	227	25%
中国語学科	62	23%
経済学科	317	19%
不動産学科	190	23%
ＨＴ学科	206	38%
回答なし	4	

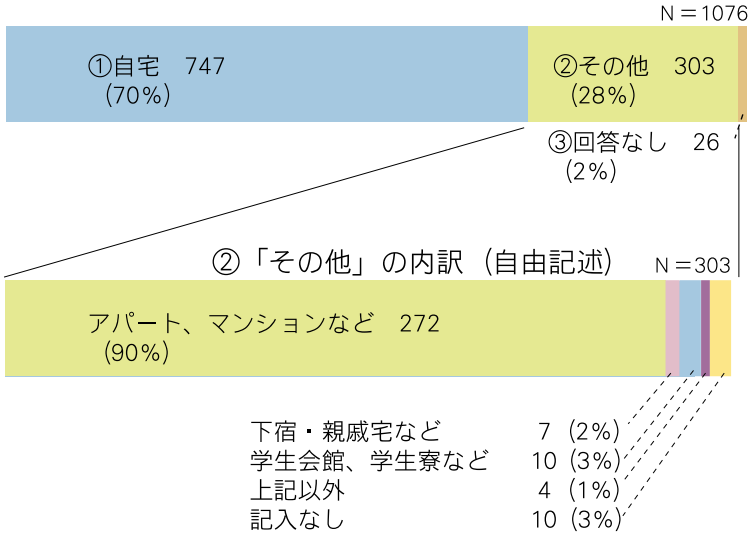
全体では、およそ４人に１人から回答をいただいています。ご協力に感謝申し上げます。
学科別に見れば、ホスピタリティ・ツーリズム学科で３人に１人強から回答が寄せられ、関心の高さを表しています。

●学年	回収数	回収率
1年	331	28%
2年	276	25%
3年	208	21%
4年	187	15%
回答なし	74	

学年別に見れば、卒業を目前にした４年生の場合は別にして、低学年ほど関心が高いことが分かります。

※パーセンテージの数値は、回答数（N）を 100％として計算。四捨五入しているので、比率の合計が 100％にならないことがあります。また、複数回答の場合、回答の合計が 100％を超えることがあります。

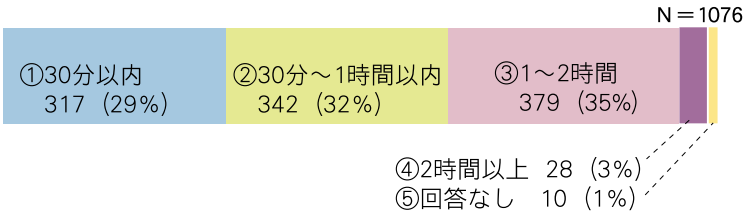
Q 大学へ通学するための住居形態を教えてください。（学生本人）



およそ７割の学生が自宅から通学しています。

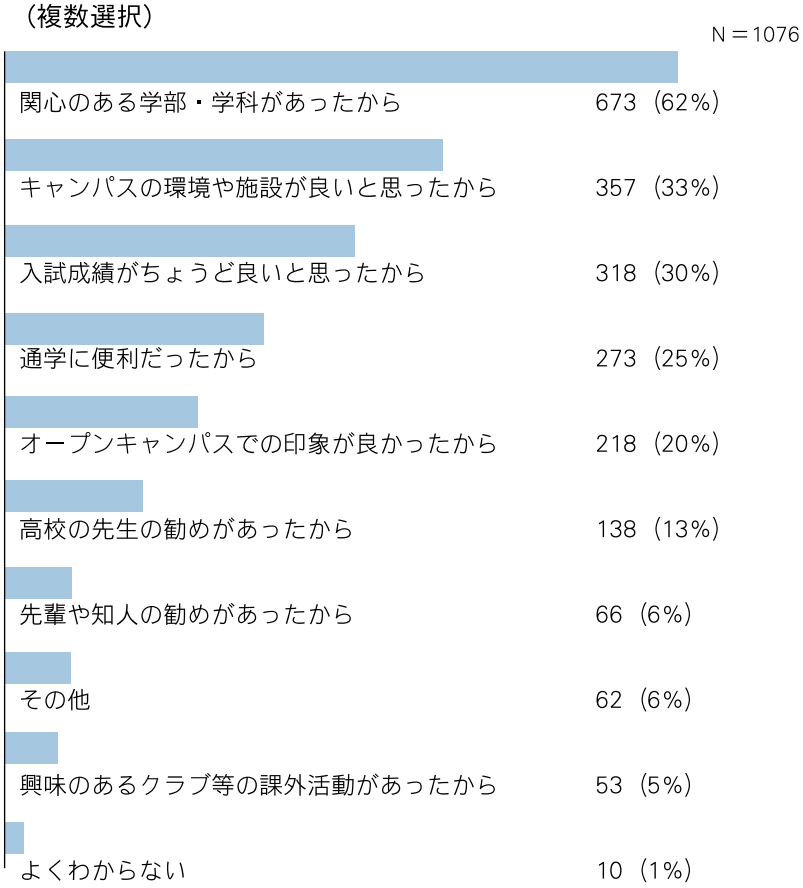
その他303名のうち、約９割は一人でアパートやワンルームマンション生活を送っているようです。

Q 大学へ通学するための片道時間はどのぐらいかかりますか。



およそ６割の学生は１時間以内での通学が可能ですが、残り４割の学生は片道１時間以上かけて通学しているようです。

Q 明海大学に入学した動機・きっかけを教えてください。（複数選択）



入学の動機・きっかけとして「関心のある学部・学科」がずば抜けています。

続いて「キャンパスの環境や施設」「通学に便利」などキャンパスの立地や印象に関わる点が挙げられています。

「高校の先生の勧め」「保護者・ご家族の勧め」「先輩・知人の勧め」が少なかったことは、考えさせられる点です。

青々とした芝生で行われる体育祭

Q 明海大学における学生生活に対する満足度はいかがですか。

N＝1076

①大変満足しているようである	145	(13%)
②ほぼ満足しているようである	630	(59%)
③やや不満のようである	139	(13%)
④大変不満のようである	20	(2%)
⑤よくわからない	129	(12%)
⑥回答なし	14	(1%)

全体の７割強が「ほぼ満足しているようである」「大変満足しているようである」と回答しています。

■自由記述意見の概要■

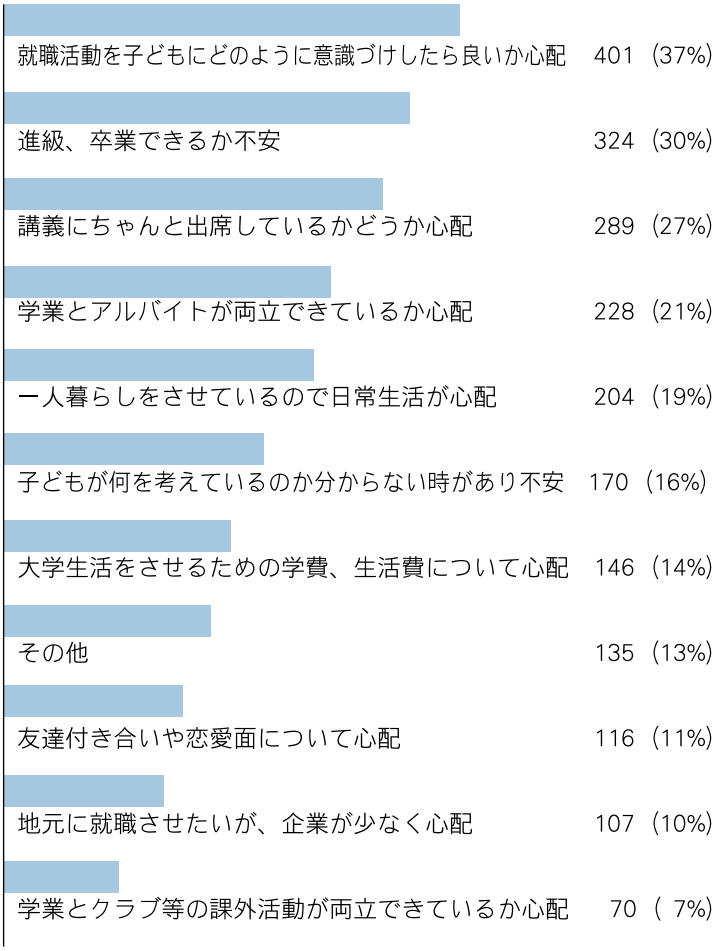
「満足」との回答者からは、「素晴しいキャンパス環境」、「講義内容やゼミ教授との信頼関係が築けた」、「海外留学で大きく成長」、「資格を取得できた上に奨励金を与えられ、励みになった」など。また、「人間関係に恵まれ楽しい生活を送っている」と感謝する声も多く寄せられています。

「不満」との回答者からは、食堂・空調・トイレなど設備面のほか、「講義中の私語が多い」、「講義が物足りない」、「語学の会話の授業が思ったより少ない」などが寄せられています。

また TOEIC に関して、「本人の努力が足りないのかもしれませんが」と謙虚な表現ながら、「進級要件の単位を取ってもTOEIC の点数が取れず留年」、「やむなく学部変更」、「TOEIC 以外のことに挑戦できない」など厳しい声がありました。

Q 日頃どのような不安や心配をお持ちでしょうか。（複数回答可）

N＝1076



就職活動を子どもにどのように意識づけしたら良いか心配	401	(37%)
進級、卒業できるか不安	324	(30%)
講義にちゃんと出席しているかどうか心配	289	(27%)
学業とアルバイトが両立できているか心配	228	(21%)
一人暮らしをさせているので日常生活が心配	204	(19%)
子どもが何を考えているのか分からない時があり不安	170	(16%)
大学生活をさせるための学費、生活費について心配	146	(14%)
その他	135	(13%)
友達付き合いや恋愛面について心配	116	(11%)
地元に就職させたいが、企業が少なく心配	107	(10%)
学業とクラブ等の課外活動が両立できているか心配	70	(7%)

保護者が子どもの就職活動にどう関われば良いか分からなくて心配する答えが全体の４割弱あります。

次に、進級・卒業、講義への出席状況、アルバイトやクラブ等課外活動と学業との両立といった成績に関する心配が続き、さらに日常健康面、学費・生活費の経済面での心配も多く寄せられています。

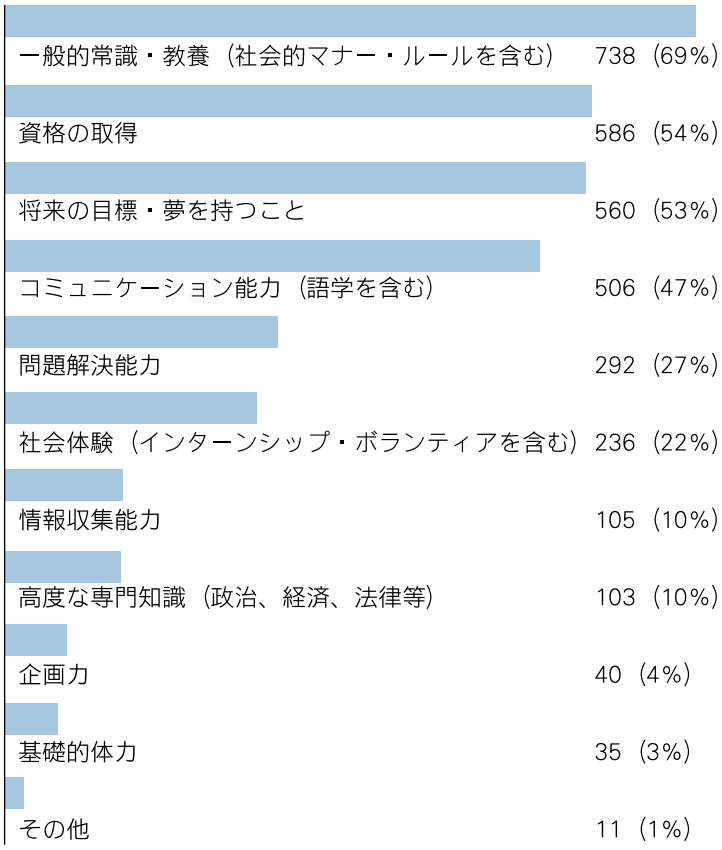
■自由記述意見の概要■

大学の知名度・ブランド力により進路が影響を受けないか不安視する声などが寄せられています。

学生同士の絆を深める「明海祭」

Q 特に在学中に身につけてほしいことは何ですか。（３つ選択）

N＝1076



全体のおよそ７割が「一般的常識・教養（社会的マナー・ルールを含む）」を挙げています。

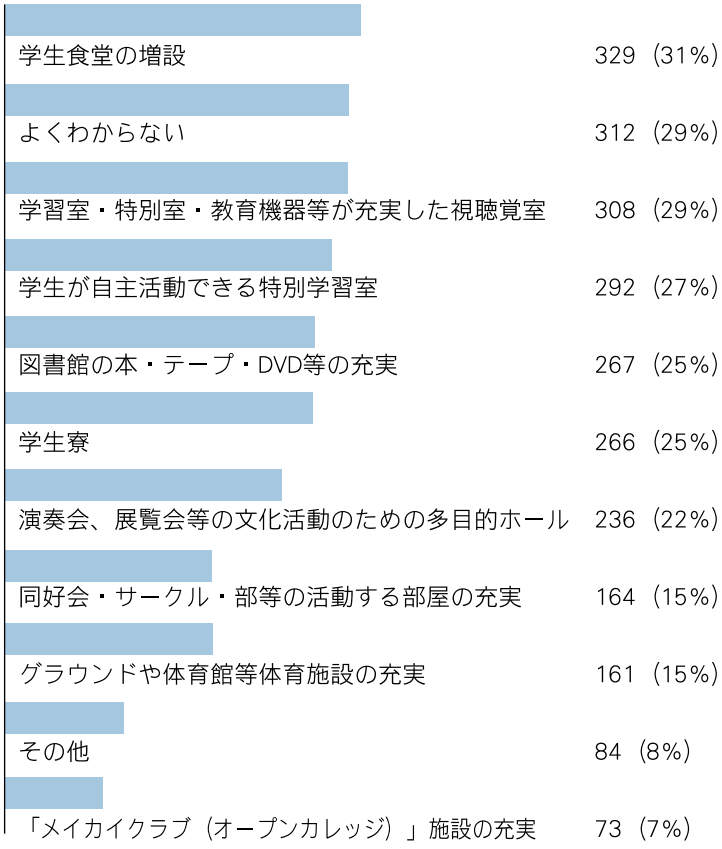
このほか「資格の取得」「将来の目標・夢を持つこと」「コミュニケーション能力」「問題解決能力」など、自分でたくましく生きて行ける社会人としての力を身につけることを強く望んでいるようです。

■自由記述意見の概要■
「具体的な形として在学中に資格を取得できるようにしてほしい」、「将来に対する目標や夢に向かって、ぜひ語学コミュニケーション能力を身につけてほしい」といった声が寄せられています。

「サマーキャンプ」は世代を超えた交流に

Q 施設や設備面で明海大学に必要とされるものは何でしょうか。（3つ選択）

N＝1076



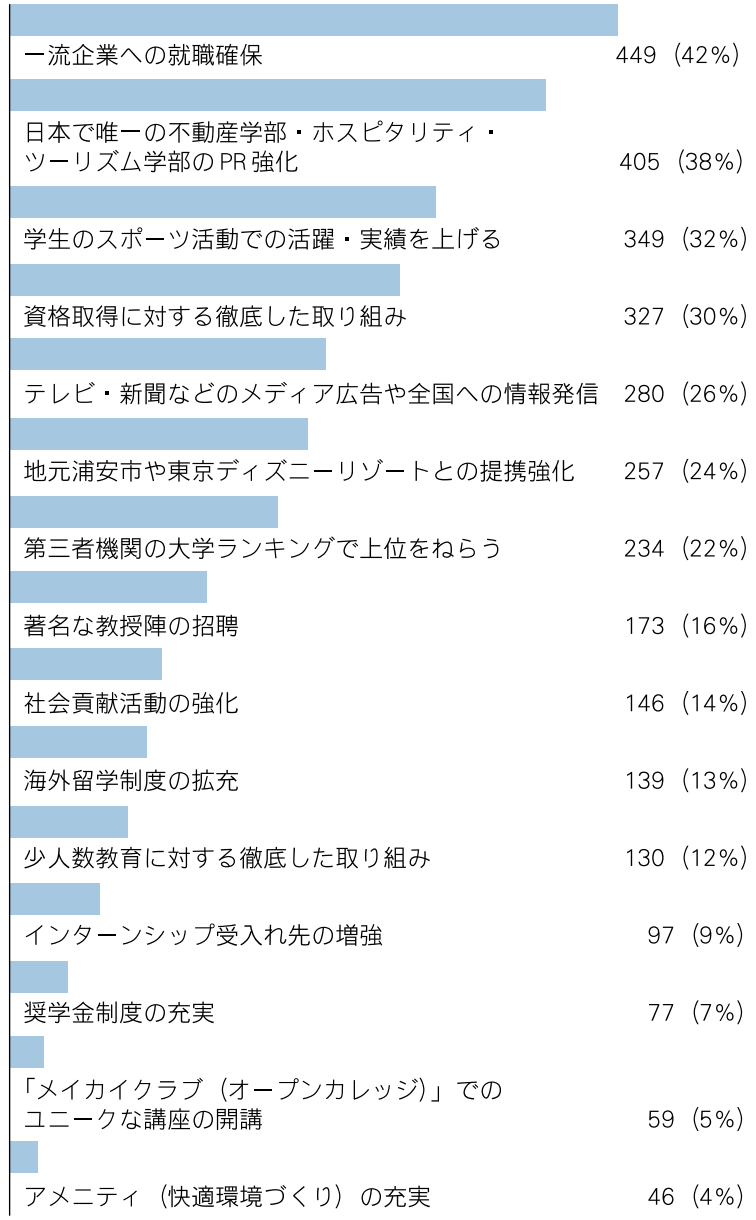
保護者が大学の施設や設備をじっくり見る機会は限られていますので、当然ながら「よくわからない」の回答が３割ありました。

それ以外で選択された方は、日ごろ学生から何気なく出ている話をもとにしていると考えられますが、学生食堂・学習室・特別室・視聴覚室・特別学習室・学生寮・多目的ホールなどの諸施設や、図書館の本・テープ・ＤＶＤなどの備品ほか選択は多岐にわたっています。

■自由記述意見の概要■
「学生食堂が混むので短時間で十分な昼食がとりづらい」という声が多く、その他空調に対する改善やロッカーの設置に対する要望の声が多く寄せられています。

Q 明海大学の知名度をアップさせるポイントは何でしょうか。（３つ選択）

N＝1076



■自由記述意見の概要■

このほか、自由意見では、「内容が伴わないＰＲなど、急いで安易な方向に向かうべきではない」、「著名でなくとも熱心で教養が高い教員を増やす」、「在籍している学生が徹底的に学べる運営を行い卒業生が各方面で活躍することが重要」といったベーシックな考え方も多く寄せられています。

４割強が「一流企業への就職確保」を挙げています。ブランド力の高い企業に多くの卒業生が就職していることは大学を選択する大きな要素で、最大限努力することで大学が強くなるとの考えが多いようです。

「不動産学部、ＨＰ学部のＰＲ」も４割弱あります。「〇〇を学ぶなら明海大学」というような強みを情報発信していくことで大学全体が強くなるとの考えが多いようです。新設学科を望む声もありましたが、両学部が日本で唯一だと知らなかったとする保護者もあり、何らかの対策は必要と思われます。

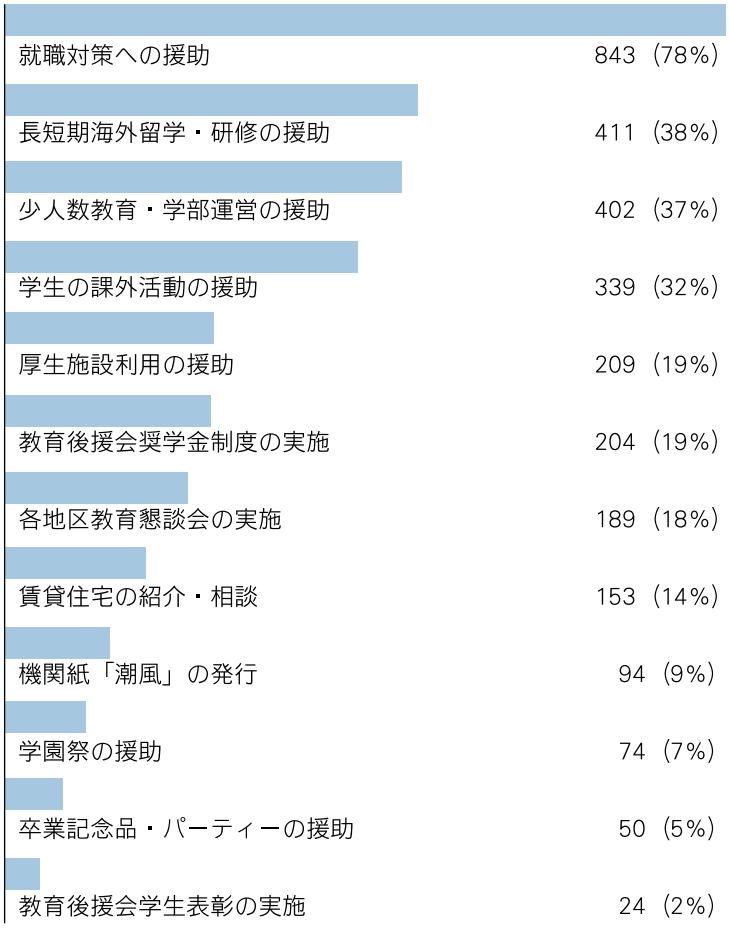
次に全体の３割弱が「スポーツ活動」「資格取得」の面を指摘しています。「手っ取り早く知名度を上げるなら学生スポーツ」との考えが多いようです。とりわけ「箱根駅伝に参加すべき」との意見が多くありました。「資格取得」は、学生自身のキャリアアップに直結するものですが、「専門的な研究をしながら〇〇資格も取得できる明海大学」とＰＲ効果にも繋がる可能性があります。

全体の４人に１人が「メディア広告や全国への情報発信」「地元との提携強化」を挙げています。ともに具体策を出すのは難しいと思われますが、現状が十分なものではないだけに保護者からの要望が高いと考えられます。

学生の出席も多い「就職懇談会」

Q 教育後援会の支援活動の中で今後も力を入れてほしいことはどれでしょうか。
（３つ選択）

N＝1076



８割近くが「就職対策への援助」を挙げています。卒業後の進路に対する子どもの希望と保護者としての心配が交差している表われと思われます。

続いて４割近くが「長短期海外留学・研修の援助」「少人数教育・学部運営の援助」を挙げています。大学での学生生活に満足していると答えた方の自由意見では、「子どもが海外留学・研修によって人が変わったように成長した」、「少人数教育で親身な指導を受け、何でも相談できている」といった声が多く寄せられています。

同じく課外活動については、「参加することで親しい友人に巡り会え、学生生活が充実している」といった自由意見が多く出されていますが、課外活動に参加している学生が少ない影響か、教育後援会の「学生の課外活動への援助」事業としては、選択数は予想より多くはありませんでした。

大学のある浦安から遠く離れた保護者からは「各地区教育懇談会」「賃貸住宅の紹介・相談」が多く寄せられています。

「キャリア講座」に熱中する学生たち

「教育懇談会」に集う保護者

ご回答いただいた皆様、ありがとうございました。

写真で見る浦安キャンパス

20周年記念事業 『ジャガランタ』を20本植樹

ジャガランタは、ノウゼンカズラ科ジャガランタ属で、日本の桐の花に似ていることから別名「キリモドキ」ともいわれている。『世界三大花木』の一つで、10ｍ以上の大木に育つ。６月には、青紫で長鐘形をした美しい花を咲かせる。南米では、「熱帯の桜とも呼ばれている。

A バスケットとテニスのコートがさらに充実！

ノース＆サウステニスコート・バスケットコート

新浦安駅から一番近いエリアにあるのがノーステニスコート。2008年春に２面増設され、サウステニスコートと合わせて15面となった。サウスは授業やオープンカレッジ、サークル活動などでの使用が多く、ノースは主に部活動の場となっている。屋外のバスケットコートはこれが初。

B 20周年記念事業 2008年春に完成！

屋外ステージ

学生から要望の高かった屋外ステージを備えた広場が2008年春に完成した。ステージは教育後援会の寄贈。樹木の一部は同窓会の寄贈。シンボル樹木であるメタセコイアは常緑樹で、成長すれば高さが10ｍを越える。広場の周囲には、東屋やベンチが置かれている。

C 課外活動の中心的存在

トレーニングセンター・クラブハウス

トレーニングセンターとクラブハウスは隣り合う２つの建物。1999年に完成した。トレーニングセンターには柔道場やマルチルーム、トレーニングルームなどがある。クラブハウスには８つの委員会室、24の部室、シャワー室や乾燥室まで完備。

D 全面に敷かれた芝生は自慢のひとつ
グラウンド

1999年に400ｍトラックに改修、2007年には全面人工芝が敷かれたグラウンド。サッカー部やラグビー部、男子ラクロス部、女子ラクロス部などが部活動で使用している。また、各種目の公式試合の会場としても使用されている。

E 学生は低料金で利用可能！
メイカイクラブ（オープンカレッジ）

1993年に開設された明海クラブ。トレーニングジム・プール･マルチスタジオ・オーディオスタジオなどの施設が備えられ、一般の人にも開放されている。学生も登録をすれば１回100円で利用できる。

F 学生たちの憩いの場
センターガーデン

学生食堂の隣にあるスペース。休み時間や昼休みなどに学生同士が集まって食事をしたり、会話をしたりして楽しんでいる。

G 約25万冊の蔵書を誇る
30周年記念館（学生ホール・図書館）

明海大学創立30周年を記念して2001年にオープン。１階に学生ホール、明海ショップ（売店）、２～５階には約25万冊の書籍を所蔵。学生の利用のほか、浦安市民にも開放している。

H のんびりと思い思いの時間を過ごす
散歩道（ウォーキングゾーン）

2004年から緑地整備されている。ビオトープやベンチ、テーブル、水のみ場などがあり、休み時間には丘の上でキャッチボールやサッカーをする学生の姿が見られる。

空から見たキャンパス

1993年

1998年

2002年

2004年

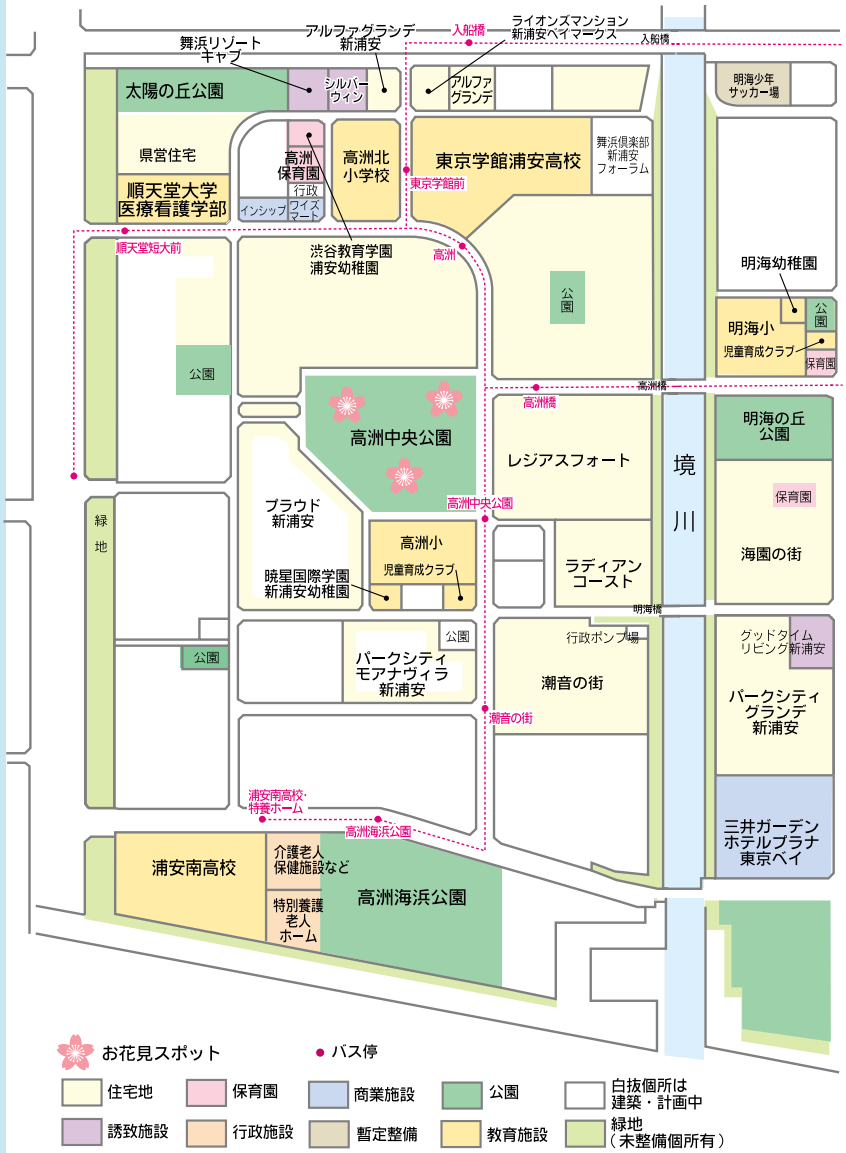
2007年

浦安キャンパスと新浦安の街並み

20年前の大学開設当初と比べ、目をみはるほどの開発を遂げている新浦安エリア。
周辺には次々と真新しく近代的なマンションが立ち並び、舞浜エリアとともに
“一大リゾート”としての趣をみせている。まだまだ進化する街の様子をご紹介。

◇SHINURAYASU History

1983（昭和58）年	東京ディズニーランド開園（舞浜）
1988（昭和63）年	明海大学開校
1990（平成２）年	ＪＲ京葉線一部開通　新浦安駅 舞浜駅開業
1993（平成５）年	ショッパーズプラザ新浦安、浦安市民プラザ Wave101、ショッピングモール MONA 新浦安がオープン ＪＲ京葉線全面開通
1994（平成６）年	ＪＲ駅ビル・アトレ新浦安、新浦安ブライトンホテルオープン
1995（平成７）年	望海（のぞみ）の街、潮音（しおね）の街、夢海（ゆめみ）の街　入居開始 新浦安オリエンタルホテル（現／オリエンタルホテル東京ベイ）オープン 新浦安駅周辺が「都市景観100選」に
2000（平成12）年	イトーヨーカドー新浦安店オープン 高洲海浜公園オープン
2001（平成13）年	東京ディズニーシーオープン（舞浜） 第１回新浦安祭開催
2003（平成15）年	ケーヨーD2、ケーズデンキ、ベビーザらスなど大型店が相次いでオープン
2005（平成17）年	パーム＆ファウンテンテラスホテルオープン ホテルエミオン東京ベイオープン
2006（平成18）年	駅前複合施設・マーレオープン 浦安市総合公園一部開園
2007（平成19）年	三井ガーデンホテルプラナ東京ベイオープン



●三井ガーデンホテルプラナ東京ベイ（H19.6～）

南の島の楽園をコンセプトに、「白を基調とした外観」「南の島のリゾートをイメージした客室インテリア」など、リゾート感を演出。ベッド数２～４が中心で、全室バス・トイレが独立した設計。客室最上階になる７階には、宿泊者専用の展望大浴場を設けている。

●ホテルエミオン東京ベイ
（H17.6～）

浦安キャンパスの目の前にオープンした高層ホテル。名前の「エミオン」とは、「笑みを」という意味。

●浦安市総合公園（H 18.6～）

平成18年から20年度にかけての大工事で、３回にわけて開園されている。遊具広場やビオトープ、デイキャンプ場などが設けられる。学生たちにとっても貴重な憩いの場となりそう。

●イトーヨーカドー新浦安店
（H12.10～）

１階は食品と婦人ファッション、２階は子ども＆スポーツ、３階は暮らし＆飲食と、バラエティー豊かな売り場を持つ。

●パークシティ東京ベイ新浦安

パンや焼肉、とんかつ、おでん屋などさまざまな飲食店のほか、病院や薬局、コンビニなどが、大通りをはさんで並んでいる。

●湯巡り万華郷（H18.2～）

大正時代の温泉街をコンセプトにした温泉施設。天然温泉や宿泊可能な宴会旅館、リラクゼーションエステフロア、飲食施設などが入っている。

教育後援会の活動

1 目的

本会は、在学生の保護者と大学との緊密な連絡、会員相互の親睦を推進し、あわせて外国語学部・経済学部・不動産学部・ホスピタリティ・ツーリズム学部学生の福利厚生の増進と課外活動等の援助を図り、明海大学の発展に寄与することを目的とし各種の事業（行事）を行っております。

現在、浦安キャンパス４学部に在学する学生数は6,000人余りを数えております。また、在学生には約600人の外国人留学生を受け入れており、中国、韓国を筆頭に、台湾、マレーシア等アジア地域をはじめ、カナダ、米国、オーストラリア、ガーナなど計17カ国からの外国人留学生が学んでおります。

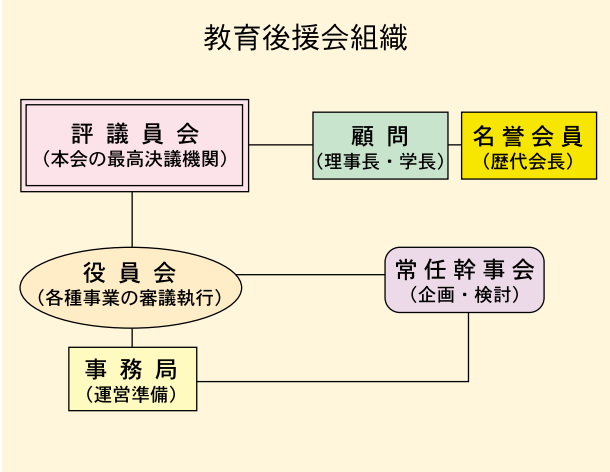
2 組織と運営

◎評議員会

評議員会は、本会の最高決議機関として、年度の初め（５月）に開催され、全国各地区から選出された60名の評議員により組織されています。また、評議員会においては、事業計画（案）及び収支予算（案）の承認並びに、事業報告及び収支決算の承認に関する事項や、新役員候補者及び新評議員候補の選出、承認に関する審議が中心となります。

◎役員会・常任幹事会

役員会は、評議員会の承認事項に伴う年内行事〈事業）を推進実施するため年６回程度役員会を開いています。学生側（学友会）から援助申請のある学園祭や部活動、卒業パーティーや、学生食堂へ多くの援助や補助を行い、少しでも学園生活に潤いを与えるべく活発なる審議を重ねております。また、教育後援会として保護者各位への情報提供を図り、広報紙の発行や地区教育懇談会の開催事業等、より一層充実させるため、常任幹事会および役員会等で協議し、教育後援会活動の運営が円滑に行われるよう努めております。



3 事業・援助紹介

◎教育後援会だより「潮風」の発行

大学の情報・状況等を伝える広報紙「潮風」を年２回（７月・１月）発行。役員会に「潮風」編集委員会を設けて企画、編集に当たっています。

◎賃貸住宅の紹介・相談

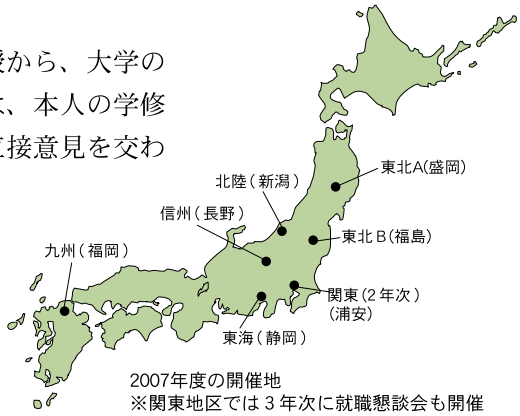
新入学生や学部生の宿舎に関し、市内のアパート・マンションの紹介等情報の提供をしています。

◎教育後援会奨学金の貸与

在学生のうち、経済的理由により修学困難と認められる者に対して授業料納付額の一部を貸与する制度。希望学生は、前学期、後学期の学費納入期前に、大学学生支援課（教育後援会）に申請書等を提出し、委員会等で審査を受けます。奨学金返還は、卒業後半年経過した後に指定金融機関へ振り込むことになります。

◎地区教育懇談会の開催

地区教育懇談会では、保護者が学長や役職者、各学部の教授から、大学の近況を直接聞くことができます。全体会のあとの個人面談では、本人の学修（単位履修）状況をふまえたうえで、学部・学科の先生方と直接意見を交わすこともできます。他に就職相談コーナー、教務相談コーナー、学生支援相談コーナー等もあり、相談に応じています。



■課外活動への援助

学生生活の向上となるよう、部・同好会・サークルや各国留学生会などの公認課外活動団体に対し、物品や部活動運営費・大会出場経費などの補助を行っています。

■明海祭への援助

毎年11月３日・文化の日を含めた３日間に開催される「明海祭」に対し、共催・参加協力・援助を行っています。この学園祭は、大学を広く一般市民へ公開・開放するよき場となっています。

■就職対策業務への援助

学生の就職対策として、大学が種々実施しているガイダンス、就職適性検査、就職講座、学内企業セミナーを支援しています。

■長期留学及び短期海外研修への援助

海外協定校への私費長期留学及び夏季休暇中の短期海外研修に対し、援助金を支給し学生が負担する経費の軽減を図っています。

■教育後援会学生表彰

浦安キャンパスに在学する学生を対象として、課外活動において顕著な成果を収めた者やその活動の振興に功績が認められるものを表彰しています。

■学友会サマーキャンプへの参加・援助

毎年夏季休暇期間内に２泊３日の日程で学友会が企画しているサマーキャンプに、教育後援会役員代表が参加すると共に、実施経費の一部を補助しています。

このサマーキャンプは、各部・同好会・サークル・各国留学生会および同好会学生代表や各学科からの学生代表、大学教職員、教育後援会役員代表など300名近い参加があります。全体会の他、分科会テーマを設けて大学環境について熱心に協議しています。

■厚生施設の利用補助

学生及び学生家族（血族・二親等）の厚生としてや部活動、サークル活動等の合宿や、その施設借用（使用）の便を図るため、一般施設と使用契約を結んでいます。特約機関（現在３施設）

（１）山の家（アルパイン・ガーデンクレス）新潟県・岩原スキー場内
（２）つま恋（ヤマハリゾート）静岡県掛川市
（３）生命の森リゾート　千葉県長生郡

■学生食堂への援助

大学の学生食堂が提供している牛乳など飲料物の半額補助を行っています。

■卒業祝賀パーティー

学位記授与式当日に行う浦安キャンパス卒業祝賀パーティーの運営経費等の援助を行っています。

■卒業記念品の贈呈・卒業アルバムの贈呈

３・９月に行われる学位記授与式に、卒業のお祝いとして「卒業記念品」明海大学オリジナルの腕時計を贈呈しています。また、学生時代の思い出となる「卒業アルバム」も全卒業生に贈呈しています。

編集後記

編集会議の様子

明海大学浦安キャンパス教育後援会創立20周年を前に、来たるべき次の10年間の指針となるよう、2006年末より20周年記念実行委員会が発足、記念事業の一環として記念誌の編集に着手しました。

本誌には、関係各位から寄せられたご祝辞のほか、次のような内容が盛り込まれています。

第一に、本会発足時からこれまでの活動の記録です。年々飛躍的に事業の数と幅が拡大してきていることが読み取れます。

第二に、歴代会長を務めていただいた14氏の記念座談会です。歴代会長・役員だけでなく、皆さんの積極的な参加によって数々の事業を展開されてきた様子が読み取れます。

第三に、保護者アンケート「未来の明海大学を考える」の調査結果のまとめです。実行委員会の手作りとはいえ、予想を超えるご回答をいただき、宝物ができたと編集委員一同感激しております。今後の活動の指針にして参りたいと存じます。

また、20周年記念特別事業として、教育後援会から「常設野外ステージ」と「ジャガランダの木、20本」を明海大学に寄贈いたしました。「常設野外ステージ」は、文化系課外活動を中心として練習や発表の場の提供を要望する学生の声に応えることができた思いです。同窓会の15周年記念の寄贈と合わせ、本館前広場整備が完成しました。「ジャガランダの木」は、世界三大花木の1つで藤紫色の花を咲かせる高木です。米国ロサンゼルスのUCLA校を視察した折に、参加者全員がロサンゼルスで見かけたジャガランダの街路樹の見事な風景を見て「明海大学の一つの名物になる」との想いで、20周年の折にはぜひ寄贈をと引き継がれてきたものでした。

2008年春、明海大学浦安キャンパスからは、1139名の卒業生が巣立っていきました。浦安キャンパスの卒業生も2万人を越え充実した同窓会としての発展も期待されています。これからの明海大学の益々の発展に、教育後援会として積極的に支援していきたい所存です。

この記念誌を作成するにあたり、編集委員のご努力はもとより、大学関係者の多大なご指導ご協力をいただきました。また、明光企画の清水氏、町田氏には献身的なご努力をいただきました。協力いただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

発行年月日　2008年5月31日

発　　行　明海大学浦安キャンパス教育後援会
〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目
TEL 047-355-5112　FAX 047-355-2871
URL　http://www.meikai.com/
E-mail　koenkai@meikai.ac.jp

編　　集　創立20周年記念誌編集委員
谷　昭夫　仲村　務　東原和男　釘﨑　徹　綿屋美知世
藤井辰巳　栗本真弓　印南彰雄　宮本知子　福山武夫（事務局）

明海大学浦安キャンパス教育後援会